

「国語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

本調査は、生徒の国語の学力状況を調査・分析することにより、本県の今後の各学校における学習指導の改善を図ることを目的としている。

国語科の領域は「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕の3領域・1事項から構成されているが、本調査では、そのうちの「C読むこと」及び〔言語事項〕について、一部中学校の内容を含め高校1年生前半までの学習内容を、選択問題形式により問うものとなっている。

□ 漢字・語句・文法

問1は「漢字」の読み書きに関する問題で、(1)～(3)は当てはまる漢字を選び、(4)、(5)は読みを選ぶもの。問2は「慣用句」の正しい使い方、問3は「敬語」の正しい用法、問4は同じ働きをする「助動詞」を問うもの。問5は「文節」、問6は「主述」の関係に関する問題で、文の基本的構造を理解しているかを見るもの。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
□ 問1	(1)	ア	②	85.7	14.3	0.0	5.5	☆	1.7	7.1
	(2)	イ	③	50.9	48.9	0.2	5.1	39.8	☆	3.9
	(3)	ウ	④	70.7	29.2	0.2	10.7	5.1	13.3	☆
	(4)	エ	①	21.1	78.8	0.1	☆	2.6	37.3	38.8
	(5)	オ	③	32.8	67.1	0.1	57.5	8.2	☆	1.4
問2		カ	②	46.6	53.1	0.3	26.8	☆	16.6	9.6
問3		キ	④	46.9	52.9	0.2	11.9	18.3	22.7	☆
問4		ク	②	55.1	44.7	0.2	18.4	☆	14.5	11.7
問5		ケ	③	67.0	32.9	0.1	5.2	13.3	☆	14.4
問6		コ	①	73.2	26.7	0.1	☆	5.4	17.0	4.3

【考察】

問1(2)「カン（閑）寂とした境地」については、39.8%が②「寒」を選んだ。その意味を文脈から「寒寒（さむざむ）」ととらえた誤答と思われる。(4)「本を著（あらわ）す」の正答率は21.1%と低く、37.3%が③「しる（す）」、38.8%が④「ちょ（す）」を選んでいった。「本を」から「しるす」を連想したか、「著者（ちょしゃ）」の読みにつられたと考えられる。(5)「貸し借りを相殺（そうさい）する」については、57.5%が①「そうさつ」を選んでおり、言葉そのものを知らない生徒が多いようだ。漢字に関する問題の結果からは、使用頻度の低い言葉を中心に、漢字を読み書きする力だけではなく、語彙力にも課題があることが窺われる。問2慣用句「他山の石」は、「目標・手本」の意に誤用されることが多く、26.8%が①、9.6%が④を正解としている。慣用句と後に続く文との関係が不明確な②を選ぶ生徒も16.6%おり、語句の正しい意味が理解されていない。問3敬語表現は、正答率が46.9%であり、昨年度と比べ32.3%減少した。これは昨年度の正答「ご覧になる」が明確な尊敬語であった点、③「拝見なさる」に尊敬の補助動詞が含まれている点が理由として考えられる。半数以上の生徒が敬語を

誤用したものを正答としており、尊敬語や謙譲語の働きの理解について課題があると考えられる。問4助動詞「れる」「られる」の働きを問うものは、誤答中①の受身を選んだ生徒が最も多かった。例文の用法を受身ととらえてしまったことが原因と思われる。問5の文節に区切る問題の正答率は、文中に誤りやすい文法知識を問うような表現がなかったことから、昨年度を大幅に上回る 67.0 %であった。問6主語・述語の関係についての問題の正答率は、ほぼ昨年度と同様である。

## 二 現代文 評論

問1，問2，問3は文脈を踏まえて内容を正しく理解できているか，問4は本文全体の内容を正しく捉えられているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミス 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
二	問1	サ	②	40.9	58.8	0.3	35.0	☆	17.1	6.7
	問2	シ	④	41.6	58.1	0.3	9.8	23.8	24.5	☆
	問3	ス	①	42.0	57.7	0.3	☆	20.9	20.7	16.1
	問4	セ	③	51.7	47.9	0.4	8.6	23.5	☆	15.7

### 【考察】

問1は、科学と記述との関係性についての問いである。その点、「科学では記述が重要だ」とする選択肢①と②に解答が集中したことは、全体の概略については理解できているものと推察される。しかし、誤答①にある「現象と言葉は常に厳密に対応する」との表現は、傍線部A直後との矛盾が明らかであり、この選択肢を選んだ者は、細かな文脈の把握や読み取りが不十分であったと言える。問2では、傍線部Bの内容について、前後の文脈を踏まえた理解ができているかを確認した。理解の鍵は、「忝意性」という比較的抽象的な語句の意味と、「本当の」の意味するところを、傍線部に近接した前後の文脈から正しく読み取れるかにあった。しかしながら、正答が 41.6%にとどまり、誤答も②や③に分散したところから、比較的狭い範囲の文脈を理解する力がまだ身に付いていないと思われる。問3は、傍線部Cの内容理解を問うものであった。傍線部に至るまでの比較的長い範囲の文脈理解が必要であり、難易度も高くなった。この問いは、傍線部Bで問われた「コトバの本当の忝意性」の再確認であり、全体の論の構成を読み取らなければならない。正解以外が3つの選択肢に分散したことは、この本文全体の論の構成が正確に読み取れていなかったことの表れではないか。問4では、本文の主旨を正しく読み取ったかを確認した。正解の③と、正解とわずかに異なる②を選択した者が大半であったところから、問1と同様に文脈の概略は読み取れていると推測できる。しかし、「我々」が「科学でのコトバを明確に定義するよう努めなければならない」理由は、誤答②にあるような「日常の正確なコミュニケーション」のためではない。このことは、本文に立ち返り、文脈を丁寧に読み返すことで理解できるであろう。

全体を通して言えることは、文章の論の構成の理解がまだ十分にできない者が少なくないということである。全体の概略は把握できていても、形式段落ごとの論の展開や、細部にわたる正確な読み取りが課題である。また、選択肢の表現の中には、本文で用いられている表現を言い換えたものも含まれており、同じ内容を叙述する場合でもさまざまな表現ができるよう日頃から工夫したい。

## 三 現代文 小説

問1，問2は登場人物の心理を読み取れているか，問3は文脈を正しく理解できているかをみる問題。問4は文章の内容と表現の特徴を正しく捉えられているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率				
						①	②	③	④	
三	問 1	ソ	①	<b>83.2</b>	16.5	0.3	☆	6.5	5.3	4.6
	問 2	タ	④	<b>61.6</b>	38.1	0.3	7.7	5.7	24.6	☆
	問 3	チ	④	<b>71.8</b>	27.8	0.5	4.4	4.1	19.2	☆
	問 4	ツ	②	<b>67.5</b>	32.1	0.4	12.3	☆	8.9	10.9

【考察】

主人公の年齢や学校という場面の設定が生徒たちの生活体験と重なる部分が多く、生徒にとっては共感できる小説であったためか、全体としては正答率が 70 %を超える結果となった。本文中にみられる時間軸の変化や登場人物の心理描写に生徒がより着目できれば、さらに正答率は高くなったと考えられる。

問 1 は正答率が 83.2 % と非常に高く、傍線部前後を読むことで容易に正答を導くことができたと思われる。ただし、②を選択して誤答となった生徒の中には「佐々木さん」の気持ちを問われていると勘違いした者がいた可能性もあり、丁寧に問いを読むとともに登場人物をしっかりと把握する必要がある。問 2 は③との選択で迷った生徒が多く、問 3 も③との選択で迷った生徒が多かったようである。どちらの誤答も一見すると正答に感じられたかもしれないが、特に今回のように生徒が共感するような小説では、登場人物の行動から心理を読み取る場合、生徒は自身の感情や感覚を移入して選択肢を判断しがちになるため、十分に注意を促したい。また、問 3 では「虚を突かれる」ということばの意味が気になり迷った生徒がいた可能性がある。この場面では主人公の気持ちが変わっていく重要な意味を持つことばとして用いられているので、生徒には語彙力の大切さも認識させたい。問 4 は問 1 と同様に、誤答の偏りは少ないが、誤答した生徒は、場面の变化や登場人物の心理を把握した上で、文章全体を理解する力が不足していると言える。今後は、生徒が自身の生活とかけ離れた設定の小説を読む場合にも対応できる力を身に付けさせていきたい。

四 古文

問 1 は用言の知識、問 2 は係り結びの法則、問 3 は動詞の活用の種類と古文の基礎的な知識を問う問題。問 4 は文脈を正確に捉えているか、問 5 は文脈を踏まえて適切に現代語訳ができるかをみる問題。問 6 は本文全体の内容を正しく把握しているかをみる問題。

問題番号	解答記号	正解	正答率	誤答率	記入ミ 無答率	選択肢ごとの誤答率 (%)				
						①	②	③	④	
四	問 1	テ	③	<b>78.3</b>	21.4	0.4	8.2	9.3	☆	3.8
	問 2	ト	④	<b>41.5</b>	58.0	0.5	21.4	20.9	15.7	☆
	問 3	ナ	④	<b>27.6</b>	71.9	0.5	33.3	27.0	11.6	☆
	問 4	ニ	②	<b>40.9</b>	58.4	0.7	18.5	☆	26.1	13.9
	問 5	ヌ	①	<b>33.9</b>	65.4	0.7	☆	14.9	22.2	28.3
	問 6	ネ	③	<b>37.8</b>	61.5	0.7	14.2	30.8	☆	16.5

【考察】

例年同様、正答率は全体的に低い。古典を理解するための基礎的・基本的な知識や、それを運用する技能はまだ十分に身に付いていない。

問 1 は、形容詞は終止形が「～し」で終わることの知識と、語幹が「わろ」活用語尾が「し」であることの識別ができれば③の正答が得られる。問 2 は、傍線部の前に係助詞「こそ」を見

つけられれば、係り結びの法則の知識から、文末の活用語の活用形は已然形と判断できる。誤答率が分散していることから、知識の不足、または知識があっても実際に文中で運用することができていないと思われる。係り結びで強調されたこの部分が、以後の文章展開把握のポイントでもあることから、基本的な文法事項が内容理解に大きく関わることを意識した指導が求められる。問3は、動詞の活用の種類の判別という基本的な事項であるが、紛らわしい単語であり、やや難度は高い。活用の種類それぞれの正確な知識により識別したい。問4は、「かかること」の指示内容を明らかにし、文脈を把握する問題であるが、登場人物とその行動が十分に把握できなかつたと思われる③の解答が多かつた。問5は、直前の会話文に反論しての言葉であると理解できればいいのだが、文脈の正確な理解ができておらず、直後の和歌に引きずられたと思われる③と、「さまに似る」から類推したと思われる④の誤答が多かつた。問6は、文章を読んで和歌の修辞の「隠し題」について理解できたかが鍵となるが、文脈の把握が曖昧なため、選択肢の表現に惑わされた解答が多かつたと思われる。

### 3 分析のまとめと指導上の改善

#### <分析のまとめと課題>

##### (1) 全体的な傾向

平均正答率は52.9%（前年比±0）で、総合的な国語の力は昨年度と同程度と考えられる。

文章を論理的に読み解く力には課題が見られる。また、例年低い古典の正答率が若干上がった（42.7%→43.3%）が、まだ力は不足している。

##### (2) 言語事項について

◇平易な漢字の読み書き、文節、主語・述語の関係については、概ね理解できている。

◆使用頻度の低い漢字の読み書き、慣用句についての理解が不十分である。

◆敬語表現、助動詞の用法についての理解が不足している。

⇒課題1：社会人として必要な言語能力の基礎、表現力や読解力の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能が十分身に付いていない。



#### <指導改善のポイント>

①基礎的・基本的な言語能力を確実に身に付けさせるために、話す・聞く・書く・読む活動と結びつけた指導や社会生活全般を意識した指導を工夫する。

○漢字については、特に生徒が躓きやすいもの、日常での使用頻度は少なくても読解する上で重要なものを、意図的に取り上げ、重点的に指導する。辞書を用いて字義を確認し、音と訓とを関連付けたり、語例や文例を複数上げるなど、学習過程に様々な言語活動を取り入れる。

○積極的に辞書を引いて意味を確認させる、例文を作る、他の表現に置き換えるなど、多様に活用させる活動も取り入れ、辞書を引くことを習慣化する。

○敬語表現や助動詞の用法については、日常の言語生活を振り返りながら日本語の待遇表現の豊かさやその機能を考えさせる。また、具体的に設定した場面での学習活動を工夫し、実生活と関連付けた指導を意識する。

### (3) 現代文について

◇論理的な文章について、文章全体の概略の把握は概ねできている。

◇身近な題材を扱った文学的な文章について、情景や場面の展開を読み取ることができる。

◆論理的な文章について、形式段落ごとの論理の展開をたどり、要旨を的確にとらえる力が不足している。

◆文学的な文章について、人物の行動描写から心情を推察する力が弱い。

**⇒課題2：論の構成をふまえた丁寧な読み方、キーワードなど重要な表現に含まれる筆者の意図や考えの読み取り方、細やかな表現に込められた心情描写の読み取り方等の指導により一層の工夫が必要である。**

### (4) 古典について

◆基礎的な古語や文法等、古文を読むための知識・技能が十分身に付いていない。

◆古典を読むことに不慣れで、展開に即して内容を正しく読み取る力が不足している。

②論理的な文章を扱う場合には、形式段落単位での論旨の展開を読み取らせるための発問や指導法を、また、文学的な文章を扱う場合には、細やかな行動描写などの表現から適切に心情を読み取らせるための発問や指導法を工夫する。

○細部にわたって的確な内容理解ができるようになるためには、意欲的かつ能動的な読みの姿勢を十分に喚起することが大切である。

○論理的な文章は、抽象的な主題等を扱うものが多く、自分とは異なる考え方や視点に気付くことが多い。授業においては、個々人の「気づき」を大切にし、複数で話し合い、考えを深めさせたい。

○文学的な文章では、身近で親しみやすい内容であれば、心情理解などの読みは自然と深まる。生徒の実態に応じた適切な教材選定が重要である。

○評論文を構成メモや構造図に整理し要約する、小説の人物、情景、展開、表現の特徴を整理する等、考えながら書き、読みのポイントを確認できるワークシートを工夫する。

③古典への興味・関心を高めるために、教材や学習活動を工夫する。

○音読、朗読によって古典の文体やリズム感を味わわせたり、名文を暗唱させたりする。

○現代でも使用されている語や古典特有の表現を足がかりにし、辞書等を十分に活用する。

○旧暦、国名、十二支、年中行事など、身近に生きる古典事項を調べたり、古典と現代の言葉や語法を比較して調べたりさせる。

○古典原文だけでなく、その現代語訳の利用を図ったり、古典に関する解説文、小説、随筆、評論等も広く取り上げ、紹介したり読ませたりする。

○基本的な古語や文法等の暗記のみにならないよう、基礎知識を活用して作

⇒課題3：古典に親しませ、その現代的な価値やおもしろさに気付かせるような指導の工夫が必要である。

品を読解させたり、現代語訳との対応に気付かせたりする。基本的な知識が、内容理解に大きく関わることを気付かせる。

○古典を現代語訳するだけでなく、物語の登場人物の視点から作品を書き換える、随筆の筆者の視点に倣って随筆を書くなど、教材に応じて発展的に書く活動をさせる。

④語彙力、言語感覚、読解力、表現力等、国語力を総合的に育成するために、幅広く読書させる。

○授業教材から発展し、同テーマを別の視点で書いた文章と読み比べたり、同著者の他の作品へと読み広げたりさせる。

○ブックトーク、ブックレビュー等の読書活動・読書指導、広告カードや帯づくり等、本を題材とした表現活動を、学校図書館も活用しながら計画的に授業に組み込み、読書意欲を喚起する。

⑤国語に対する生徒の学習意欲を一層高め、これからの時代に求められる論理的な思考力や表現力を育成するために、教材や学習活動を工夫する。

○読むことの指導過程に、読み取ったことをもとにした、発表、討論、ディベート等の話す・聞く活動や、要約、リライト、鑑賞、批評、論説等の書く活動も取り入れる。

○興味のある時事的な話題について、新聞、雑誌などの記事を収集し、事実と意見をまとめたり、比較・分析したりさせる。

○図表など文章以外の資料を分析し、根拠に基づき自分の考えをまとめて書かせる。

身に付けさせたい力を明確にし、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」を有機的に関連付けながら、生徒が主体的に学習を進められるように言語活動を工夫する。

## 学 科 群 別 正 答 率 一 覧

問題 番号	記号	正答	全 体 正答率(%)	普通科	職業系 専門学科	その他 の学科
			52.9	55.5	42.8	51.9
第一問	ア	2	85.7	88.9	73.4	84.0
	イ	3	50.9	55.0	35.5	48.5
	ウ	4	70.7	73.9	58.2	68.0
	エ	1	21.1	22.5	15.5	18.5
	オ	3	32.8	32.7	32.5	28.6
	カ	2	46.6	48.8	38.6	44.4
	キ	4	46.9	50.3	34.3	46.2
	ク	2	55.1	59.3	40.5	52.1
	ケ	3	67.0	69.1	56.8	68.2
	コ	1	73.2	76.0	61.8	73.8
第二問	サ	2	40.9	41.9	37.3	40.5
	シ	4	41.6	44.4	30.9	40.5
	ス	1	42.0	43.4	36.0	41.0
	セ	3	51.7	55.3	37.7	50.7
第三問	ソ	1	83.2	86.4	70.1	80.2
	タ	4	61.6	65.0	47.6	59.9
	チ	4	71.8	74.5	60.3	69.6
	ツ	2	67.5	69.5	59.1	66.5
第四問	テ	3	78.3	80.6	66.9	78.8
	ト	4	41.5	47.5	17.4	44.5
	ナ	4	27.6	27.2	29.4	27.1
	ニ	2	40.9	43.6	31.6	40.2
	ヌ	1	33.9	36.1	24.1	36.4
	ネ	3	37.8	39.3	32.9	37.1

## 「数学」ペーパーテスト結果と考察

## 1 出題のねらいと内容

数学 で学習する「数と式」、「一次不等式」、「二次方程式」、「二次関数とそのグラフ」、「二次関数の値の変化」について、基礎的・基本的事項の理解をみることを中心とし、後半では複数項目を組み合わせた問題や数学的な読解力をみる問題も出題した。作成にあたり、学習指導要領「数学」の目標とねらいの達成状況が把握できるように、目標とねらいを分析し、参考とした。

1～7は、「数と式」についての問題、8～9は、「一次不等式」についての問題、10～12は、「二次方程式」についての問題、13～17は、「二次関数とそのグラフ」についての問題、18～19は、「二次関数の値の変化」についての問題であるが、各問の内容とねらいは、それぞれ次のとおりである。

設問	内容とねらい
1	式の展開を通して分配法則ができるかをみる問題である。
2	指数法則の理解度と計算力をみる問題である。
3	たすきがけを利用して因数分解できるかをみる問題である。
4	(1)は整式を一つの文字に着目して整理できるかをみる問題、(2)は(1)を利用した二つの文字を含む因数分解ができるかをみる問題である。
5	根号の意味についての理解度と無理数についての計算力をみる問題である。
6	無理数についての計算力と分母の有理化ができるかをみる問題である。
7	絶対値の記号の意味と無理数と整数の大小関係が理解できるかをみる問題である。
8	連立不等式を解く力をみる問題である。
9	問題文の内容を、不等式を用いて立式する力をみる問題である。
10	因数分解を利用して二次方程式の解が求められるかをみる問題である。
11	平方の形に変形した二次方程式の解法を通して、平方根の意味についての理解をみる問題である。
12	二次方程式の解の公式の定着と活用の力をみる問題である。
13	二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題である。
14	二次関数を標準形に変形する計算力と、その結果からグラフの頂点の座標が読み取れるかをみる問題である。
15	グラフが通る点の意味をグラフから読み取り、与えられた条件を満たす二次関数を求める問題である。
16	座標平面上で、二次関数のグラフの平行移動と $x$ 軸に関して対称移動について正しく理解しているかをみる問題である。
17	(1)は二次関数のグラフの対称性を利用して、 $x$ 軸との交点から軸の方程式を読み取る力と、(2)は長方形の対称性を利用して考察する力をみる問題である。
18	二次関数のグラフを通して、二次関数の値の変化を考察し、最大値・最小値を求めることができるかをみる問題である。
19	二次関数の定義域の範囲の変化に伴って変わる最大値と最小値の差を、定義域と軸の位置関係を考察して求める力をみる問題である。



## 2 結果と考察

1  $(2x + y)(x - 2y) = 2x^2 - \boxed{\text{ア}} xy - \boxed{\text{イ}} y^2$

式の展開を通して分配法則の理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
1	ア	3	63.3	36.4	0.3	$2x^2 - 4xy - 2y^2$ (19.8%), $2x^2 - 2xy - 2y^2$ (3.4%), $2x^2 - xy - 2y^2$ (3.1%) など
	イ	2				

【考察】昨年度と因数の積の順序を替えた問題である。正答率は昨年度より4ポイント下がった。 $xy$ の項の係数について誤りが多く、分配法則による同類項の整理について理解が不十分であり、特に係数が1である項の整理に理解の不十分さがうかがえる。分配法則の定着とともに係数1が省略された項の整理について確認する指導が必要である。

2  $a \times (-2a^2)^3 = \boxed{\text{ウ}} a^{\boxed{\text{エ}}}$

ウ： 2      -2      4      -4      6      -6      8      -8  
エ： 5      6      7      8      9

指数法則の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
2	ウ		50.3	49.5	0.2	$-8a^6$ (15.0%), $-8a^9$ (6.6%) など
	エ					

【考察】昨年度の問題から  $a$  をかける順序を替えた問題である。正答率は昨年度より約8ポイント上がった。 $a$  が前からかけられたことで、 $a^1$  を意識して計算することで、ケアレスミスが少なくなった事が考えられる。誤答例を見ると「 $a = a^1$ 」として捉えていない生徒のほか $(a^2)^3$ の指数が $2^3$ と考えている生徒も少なからずおり、指数法則の確認とともにより丁寧な指導が必要である。

3  $3x^2 - x - 4 = (\boxed{\text{オ}} x - \boxed{\text{カ}})(x + \boxed{\text{キ}})$

たすきがけを利用した因数分解の理解度と計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
3	オ	3	69.8	28.8	1.4	$(3x - 2)(x + 2)$ (7.2%), $(3x - 1)(x + 4)$ (3.8%) など
	カ	4				
	キ	1				

【考察】定数項が素数ではないときのたすきがけによる因数分解である。たすきがけの方法が定着していなかったり展開して検算しないと、安易に $\boxed{\text{カ}}$ と $\boxed{\text{キ}}$ の両方に2を入れたり、 $\boxed{\text{カ}}$ と $\boxed{\text{キ}}$ に入れる数字を取り違えたりする間違いに繋がっており、昨年度と比べて誤答が約5ポイント増している。たすきがけによる因数分解は使用頻度も高く、しっかりと定着させる必要がある。

4 整式  $A = x^2 + 3ax + 2a^2 - 4x - 5a + 3$  について

(1) 整式Aを  $x$  に着目して整理すると

$$x^2 + (\boxed{\text{ク}})x + (\boxed{\text{ケ}})$$

である。

$$x \text{ の項の係数 ク : } \begin{array}{cccc} -4 & -1 & 3a & 3a-4 \\ 3ax-4x & & x+3a-4 & \end{array}$$

$$\text{定数項 ケ : } \begin{array}{cccc} 3 & -2a & -5a+3 & -4x-5a+3 \\ 2a^2-5a+3 & & 3ax+2a^2-5a+3 & \end{array}$$

(2) 整式Aを因数分解すると,

$$(x + \boxed{\text{コ}} a - \boxed{\text{サ}})(x + a - \boxed{\text{シ}})$$

である。

二つの文字を含む整式の因数分解を, 一つの文字に着目するなどして正確に処理できるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
4(1)	ク		71.7	27.6	0.7	$x^2 + (3ax - 4x)x + (2a^2 - 5a + 3)$ (3.6%), $x^2 + (3a - 4)x + (-5a + 3)$ (2.5%) など
	ケ					
4(2)	コ	2	37.4	55.2	7.4	$(x + 2a - 1)(x + a - 3)$ (8.2%), $(x + 3a - 4)(x + a - 3)$ (2.7%), $(x + 3y - 4)(x + a - 5)$ (2.6%) など
	サ	3				
	シ	1				

【考察】二つの文字を含む整式の因数分解について, 今年度は生徒が定数として扱いやすい  $a$  の文字を使用したことにより, 昨年度より正答率は微増した。

(1) は  $x$  について整理するにも関わらず, 係数に  $x$  の文字を含んだ選択肢を選ぶ誤答と式の一部分をそのまま解答としたものがあつた。問題文の整式の各項を未確認のまま解答する生徒が多いことがうかがえる。

(2) は (1) を踏まえてたすきがけで解答を導く問題であり, (1) に比べ無答率が高かつた。たすきがけをする際に, 定数項の  $+3$  が  $(+1) \times (-3)$  であると考えた誤答が多く, 符号に対してもっと注意を払う指導が必要である。

今後は複雑な因数分解にも対応できるようにするため, 一つの文字に着目して整理するよさや, その先の見通しをもって因数分解することを十分に理解させる指導が必要である。

$$5 \quad \sqrt{1} - \sqrt{2} + \sqrt{4} + \sqrt{16} + \sqrt{32} = \boxed{\text{ス}} + \boxed{\text{セ}} \sqrt{\boxed{\text{ソ}}}$$

根号の意味についての理解度と無理数についての四則演算の計算力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
5	ス	7	48.1	49.4	2.5	$6 + 3\sqrt{2}$ (8.1%), $6 + 4\sqrt{2}$ (2.2%) $5 + 3\sqrt{2}$ (1.6%), $6 + 4\sqrt{1}$ (1.5%) など
	セ	3				
	ソ	2				

【考察】昨年度の無理数のかけ算に関しては正答率 62.6% であつたが, 今回の無理数の加減に関しては

47.7%と低い結果であった。 $-\sqrt{2}+4\sqrt{2}=3\sqrt{2}$ の計算は比較的できていたようだが、誤答例のように、根号のついた数が整数となる部分の計算を間違える生徒が多かった。中学校でも学習する基本的な計算問題であったが、計算ミスや、根号の意味を理解していない、特に $\sqrt{1}=1$ であることを理解していないなどの傾向が見られた。無理数の計算については数学のほとんどの分野において欠かせないものである。確実な定着を図るため、より丁寧な指導が必要である。

6  $\frac{3\sqrt{5}}{\sqrt{5}+\sqrt{2}}$ の分母を有理化すると  である。

$$\begin{array}{cccc} \frac{15+3\sqrt{10}}{7} & \frac{15-\sqrt{10}}{7} & \frac{5-\sqrt{10}}{7} & \frac{5-3\sqrt{10}}{7} \\ 5-3\sqrt{10} & 5-\sqrt{10} & 15-\sqrt{10} & \frac{45}{7} \end{array}$$

無理数についての計算力と分母の有理化ができるかをみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
6	タ		51.4	47.0	1.6	(11.6%), (8.5%), (8.0%) (7.2%), (6.0%), (4.5%) など

【考察】昨年度と同じ有理化の問題だが、今回は誤答の傾向を探るために選択肢から選ぶ形式にした。分母・分子に分母と同じ  $\sqrt{5}+\sqrt{2}$  をかけて有理化する間違いは多く、注意が必要である。この場合、さらに  $(\sqrt{5}+\sqrt{2})^2=5+2$  と安易に計算してしまうような結果になってしまう傾向が強い。を選んだ生徒は有理化の方法は理解していたものの、約分を間違えてしまったと推測される。昨年も最も多い誤答例であり、約分についての丁寧な指導が求められる。また、 $(\sqrt{5})^2-(\sqrt{2})^2=25-4$  としてしまった間違いと推測される。はさらに約分も間違えた場合の解答であり、こういった選択肢を選んでしまう生徒が多いということは、平方根の計算について正しい理解が得られていないということである。約分の仕方も含めて基本的な計算の仕方について、誤答例を挙げるなどして工夫をした指導をしていく必要がある。

7  $|2-\sqrt{5}|$ の値は  である。

$$\begin{array}{cccc} 9-4\sqrt{5} & 2-\sqrt{5} & 2+\sqrt{5} & -2+\sqrt{5} \\ 3 & 0.2 & 1 & -1 \end{array}$$

絶対値の記号の意味と無理数と整数の大小関係の理解度をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
7	チ		54.0	45.0	1.0	(20.2%), (16.8%), (2.3%) など

【考察】絶対値の記号の意味を理解して、正確に絶対値をはずすことができるかどうかを問う問題である。しかし、各々の数値について「プラスはプラスに、マイナスはプラスに」という安易な覚え方をし、絶対値の意味を理解しないまま解答した  $2+\sqrt{5}$  という解答が目立った。また、 $2$  と  $\sqrt{5}$  の大小関係がわからず、そのまま絶対値をはずしてしまった誤答も目立った。絶対値については、2学年になっても苦手と答える生徒は多い。無理数と整数の大小関係も含めて、具体例を挙げながら粘り強く知識定着に向けて指導していく必要がある。

8 連立不等式  $\begin{cases} 3x+5 > 2 \\ -2x+1 < 7 \end{cases}$  の解は、 である。

$$\begin{array}{cccc} x > -4 & x > -3 & x > -1 & -3 < x < -1 \\ x < -4 & x < -3 & x < -1 & -1 < x < -3 \end{array}$$

連立不等式を解く力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
8	ツ		34.9	64.0	1.1	(22.7%), (19.6%), (10.9%) など

【考察】問題6と同様に、選択肢から選ぶ形式にすることで、誤答の傾向を調査した。はじめの不等式において、 $3x > -3$ とした後に、 $x < -1$ と符号の向きを変えてしまいやすく、の誤答が目立った。さらに、負の数の大小関係がわからず $-1 < x < -3$ としてしまう生徒が10.9%もいたことは注意が必要である。また、の誤答のように共通範囲を求める際に混乱してしまっているようである。なお、昨年度と同じ問題ながら正答率が6.5ポイント下がったが、昨年度の解答の形式は、 $x > -\square$ の形式で、が誤りであることに気づきやすく、の誤答が32.1%と圧倒的に多かった。共通範囲の求め方は、連立二次不等式をはじめとして、各分野で必要になることだけに、数直線にそれぞれの範囲を図示して大小関係をイメージさせながら丁寧に指導したい。

9 「良太君は、家から学校まで1000mの道のりを行くのに、はじめは分速120mで走り、途中からは分速60mで歩きます。良太君は、家を出発してから15分以内に学校に到着するためには何m以上走る必要があるかを、不等式を使って考えることにしました。」

良太君が使う最も適当な不等式は、走ることになる道のりを  $x$  m とすると、 である。

$$\begin{array}{cc} \frac{x}{120} + \frac{1000-x}{60} \geq 15 & \frac{x}{120} + \frac{1000-x}{60} \leq 15 \\ \frac{x}{120} + \frac{1000-x}{60} > 15 & \frac{x}{120} + \frac{1000-x}{60} < 15 \\ 120x + 60(1000-x) \geq 15 & 120x + 60(1000-x) \leq 15 \end{array}$$

問題文の内容を、不等式を用いて立式する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
9	テ		47.5	50.9	1.6	(12.8%), (12.4%), (10.2%), (8.6%), (6.8%) など

【考察】昨年同様、不等式の立式の問題である。昨年度より正答率が16.5ポイントも下がった理由としては、「速さ・時間・距離の関係」について十分な理解がなされていないことやこのような文章題を苦手としている傾向が強いことが窺える。また、文章の中に「15分以内」「何m以上」と「以上・以下」の言葉が混在していたが、その表現に惑わされた生徒も多かった。数学を活用するためには文章から正確に式を立てることが大切であり、今後も文章から式を立てる指導の徹底が必要である。

10 2次方程式  $x^2 - 5x - 6 = 0$  の解は、 $x =$  ,  $-$   である。

因数分解を用いて、二次方程式の解を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
10	ト	6	68.6	30.2	1.2	$x = 1, -6$ (12.8%), $x = 2, 3$ (2.6%) など
	ナ	1				

【考察】昨年度とほぼ同様の内容の出題であるが、正答率は、4.9ポイント減少と大幅に下がった。昨年度、符号のミスによる誤答が、10.5%であったが、今年度は12.8%と2.3ポイントも高くなっている。これは、因数の中の定数の数字をそのまま解として読み取ってしまうためである。つまり、因数分解による二次方程式の解の解法の意味を理解できていないのではないかと考えられる。中学校で学習する内容であるが、高校数学でも頻出する計算であり、確実に身に付けさせたい内容である。

11 2次方程式  $(x+a)^2 = b$  の解を定数  $a, b$  で表すと、 $x = \boxed{\text{ニ}}$  となる。

ただし、 $b > 0$  とする。

$$\begin{array}{cccc} -a \pm b & a \pm b & -a \pm \sqrt{b} & a \pm \sqrt{b} \\ b \pm \sqrt{a} & -b \pm \sqrt{a} & a + \sqrt{b} & -a + \sqrt{b} \end{array}$$

二次方程式の平方完成による解法についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
11	ニ		51.3	45.4	3.3	(11.4%), (6.9%) など

【考察】昨年度は左辺を完全平方式の形に変形させ、解を求める問題であったが、今年度は、完全平方式の形から解を求められるかどうかを重点的に見ることにした。その結果、昨年度の正答率 39.7% に対し、今年度は、51.2% と上昇している。完全平方からの解は求められるが、完全平方の形への式変形が定着していない生徒が多いのではないかと考えられる。2次関数・2次方程式以外にも平方完成が必要とされる場面は多く、また、解の公式を導くのに必要とされる式変形であることから、機会ある毎に定着を確認しておきたい。

12 2次方程式  $x^2 + 7x + 11 = 0$  の解は、 $x = \frac{-\boxed{\text{又}} \pm \sqrt{\boxed{\text{ネ}}}}{2}$  である。

二次方程式の平方完成による解法や解の公式についての理解をみる問題

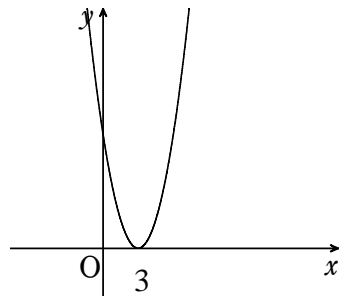
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
12	又	7	73.5	23.5	3.0	7, 4 (2.2%), 7, 3 (1.5%) 7, 無答 (1.0%) など
	ネ	5				

【考察】4年間の正答率は、55.9% 61.0% 58.5% 73.5% と推移しており、4年間の中で一番よいのであった。これは、解の公式で求める際に、約分がない問題を出題したためと考えられる。解の公式自体の理解力は高いのではないかと思われる。ルートの中の計算ミスで誤答になっていたのが、7.3% もいた。現行の学習指導要領では、二次方程式の解の公式や判別式は高校で初めて学習する内容であるが、よく使用されるので確実に定着を図りたい。

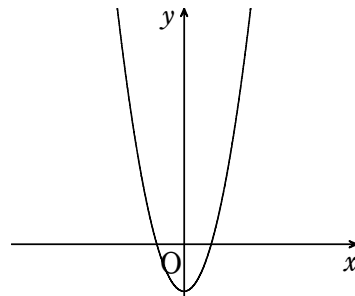
13 次の ~ のグラフは、2次関数  $y = x^2$  のグラフを平行移動したものである。

この中で、 $y = x^2 - 3$  のグラフは  $\boxed{\text{ノ}}$  で、 $y = (x-3)^2$  のグラフは  $\boxed{\text{ハ}}$

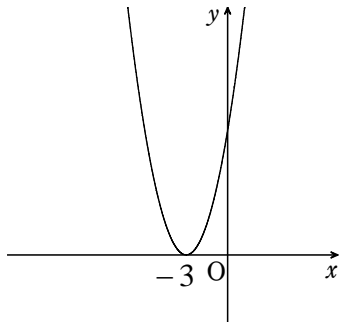
である。



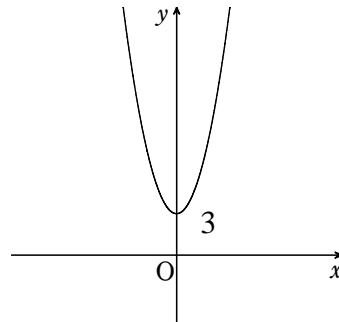
頂点 ( 3 , 0 )



頂点 ( 0 , -3 )



頂点 ( -3 , 0 )



頂点 ( 0 , 3 )

二次関数のグラフの平行移動についての理解をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
13	ノ		78.9	20.2	0.9	( 11.6% ), ( 4.3% ), ( 4.3% )
	ハ		70.5	28.2	1.3	( 12.1% ), ( 10.6% ), ( 5.5% )

【考察】4年間の正答率の推移は、ノで 72.1% 75.8% 78.4% 78.9% ,ハで 61.8% 67.4% 67.1% 70.5%となっている。ノについては昨年と同じ問題で、正答率もほぼ同じであった。ハについては符号が変わったため、3.4 ポイント増加した。昨年より y 軸方向の平行移動と x 軸方向の平行移動についての正答率の差が縮まっており、一昨年並みになった。x 軸方向の平行移動が生徒には理解しにくようである。このことを十分理解したうえで指導にあたる必要がある。

14 二次関数  $y = 2x^2 - 8x - 1$  のグラフの頂点の座標は (  , -  ) である。

二次式の平方完成を用いて、二次関数の頂点を求める力をみる問題

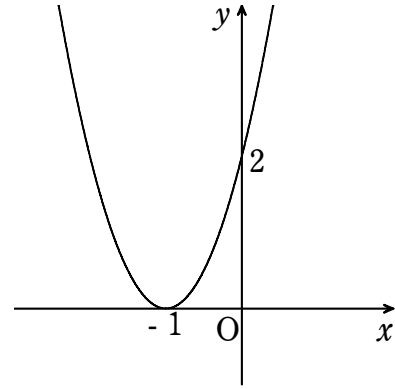
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
14	ヒ	2	64.7	33.5	1.8	( 2 , - 5 )( 6.7% ), ( 8 , 1 )( 3.2% ) など
	フ	9				

【考察】昨年度の正答率が、65.9%で、1.2 ポイントの減少であった。今年度は、 $x^2$  の係数を 2 としたために、係数でくくる計算がプラスされたが、正答率の減少は少なかった。頂点の y 座標のみの誤答は 12.9%と高かった。特に、係数の 2 を掛けずに y 座標を「 - 5 」にしているのが 6.7%と高い。二次関数において、標準形への変形は定着しつつある。誤答例には式の係数をそのまま読み取ったものが多く見受けられる ( 3.2% ) ことから、頂点の座標を求めるために平方完成する必要があることを確実に定着させておきたい。

15 右の図が2次関数のグラフであるとき、その式は、

$$y = \boxed{\text{へ}} x^2 + \boxed{\text{ホ}} x + \boxed{\text{マ}}$$

である。



与えられた条件を満たす二次関数を求める方法をグラフから判断し、計算する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
15	へ	2	34.8	61.0	4.2	$y = x^2 + 2x + 3$ (5.8%), $y = 2x^2 + x + 2$ (5.3%), $y = x^2 + 2x + 2$ (4.6%) など
	ホ	4				
	マ	2				

【考察】昨年度と同様にグラフから通る点を判断させ、放物線の方程式を導く問題である。昨年度は通る3点の座標を読み取らせたが、今年度は頂点の座標が読み取れ、昨年度よりも正答率が4.5ポイント上昇した。しかし、誤答には頂点をグラフに書かれてある数字を用いて(-1, 2)としたものや、y軸との交点は一致しているが、その他の係数がことなるものが10通り以上みられた。グラフから得られる情報を的確に表現させる指導が必要である。

16 放物線  $y = x^2 + 2x + 3$  をx軸方向に  $\boxed{\text{ニ}}$  , y軸方向に  $\boxed{\text{ム}}$  だけ平行移動し、さらに、x軸に関して対称移動すると、放物線  $y = -x^2 + 4x - 9$  に重なる。

二次関数のグラフの平行移動とx軸に関する対称移動の理解をみる問題

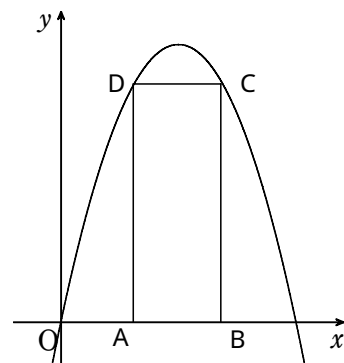
問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
16	ニ	3	29.0	67.3	3.7	x軸方向に3, y軸方向に7 (13.8%), x軸方向に2, y軸方向に6 (9.6%) など
	ム	3				

【考察】二次関数のグラフの平行移動、対称移動を頂点の移動から正しく判断する力が求められる問題である。移動を遡って考えることやx軸に関する対称移動も加わったため昨年度よりも正答率はかなり低くなった。誤答例には平方完成しないで移動を考えたものや、x軸方向の変化しか掴めなかったと思われるものが目立った。対称移動における頂点の移動をグラフの概形をかいて視覚的に考察することも必要と思われる。

17 放物線  $y = -x(x - 4a)$  ( $a > 0$ ) について、

(1) この放物線の軸は、直線  $x = \boxed{\text{メ}}$   $a$  である。

(2) 右の図のように、この放物線とx軸とで囲まれる部分に、長方形ABCDを辺ABがx軸上にあるように内接させる。AB = 2のとき、長方形ABCDの周の長さが52となるようなaの値は、



$$a = \frac{\boxed{\text{モ}}}{\boxed{\text{ヤ}}}$$

である。

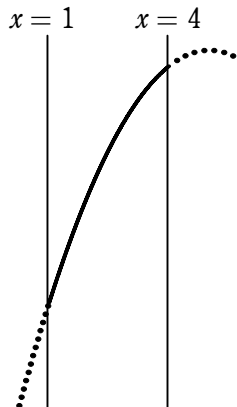
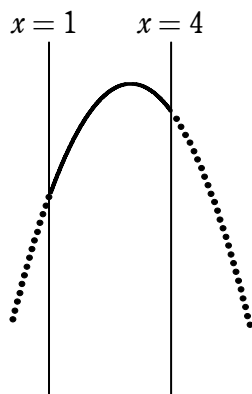
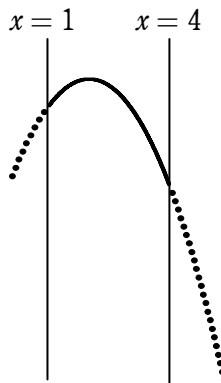
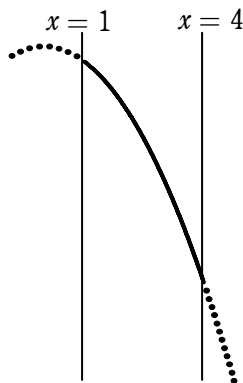
二次関数のグラフの対称性を利用して、軸の位置や図形の性質を的確に把握し考察する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
17	メ	2	31.6	62.7	5.6	4 (55.3%), 3 (2.7%) など
	モ	5	12.4	65.3	22.3	$\frac{3}{2}$ (5.3%), $\frac{7}{2}$ (4.9%) など
	ヤ	2				

【考察】二次関数のグラフが軸に関して対称であることを利用して解く問題である。しかし、メの解答は  $x = 4a$  (誤答) が  $x = 2a$  (正答) を上回るという残念な結果になった。グラフの概形を描いてみて  $x$  軸との交点の座標から軸の位置を求めないで、問題文中の式がすでに平方完成されているものと勘違いして解答したのではないか。(2) では軸の位置を理解した後、2点 A, B の座標をきちんと  $a$  で表現できたかがポイントとなる。二次関数のグラフと他の図形との融合問題などは思考力や表現力を高めることもあり、応用・発展的な指導も必要である。

- 18 二次関数  $y = -x^2 + 6x - 8$  ( $1 \leq x \leq 4$ ) の変化の様子を表している最も適当な図は、次の ~ のうち、 であり、最大値は  , 最小値は -  である。

ユ :





二次関数の値の変化を的確に把握し、最大値及び最小値を求める力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
18	ユ		60.7	36.4	2.8	(14.7%), (11.0%), (10.7%) など
	ヨ	1	51.2	43.7	5.1	0 (18.9%), 3 (9.0%), 4 (6.4%), など
	ラ	3	65.1	29.6	5.3	1 (9.9%), 4 (4.5%), 8 (4.2%) など

【考察】定義域内でのグラフの様子は、上に凸の放物線の軸の位置が正確に捉えられるかがポイントになるが、定義域の両端の値に対する  $y$  の値だけを調べてユでは、ヨでは 0 と解答したものが予想通り多く見受けられた。また、最大値についてはユの正答者の中で平方完成を正しくできたものしか正解しなかったと思われる。さらには下に凸の二次関数と思い違いをしていることを窺わせる誤答も多少あるようだ。二次関数の最大・最小を考える場合には、グラフの軸の位置が重要になるが、合わせて、上に凸か下に凸かを判断して、グラフをかいてから最大・最小値を考えさせる指導が必要と思われる。

19 二次関数  $y = x^2 - 2x + 2$  の  $t \leq x \leq t + 2$  における最大値を  $M$ 、最小値を  $m$  とする。

$-1 \leq t \leq 1$  のとき、  $t + 2$   であり、

このとき、  $M - m$   である。

文字定数の変化から二次関数の位置の変化をとらえ、見通しをもって  $x$  軸との位置関係を考察する力をみる問題

問題番号	記号	正解	正答率	誤答率	無答率	誤答例
19	リ	1	49.9	39.4	10.7	1 $t \leq 5$ (6.7%), 1 $t \leq 2$ (3.0%) など
	ル	3				
	レ	1	9.8	72.6	17.7	1 $M - m \leq 5$ (9.1%), 2 $M - m \leq 4$ (5.1%) など
	ロ	4				

【考察】無答率の高さからも、このように定義域が変化する問題を目にする機会が少ないのではないかと感じられる。 $t + 2$  の取り得る値の範囲については単に値を代入するだけで正答が得られるはずであるが、難しく考えてしまったものも多かったのではないだろうか。

後半は軸が常に定義域に含まれているので最小値は一定であること、最大値については軸との位置によって場合分けの必要があることに気づくことができたかが大きなポイントとなる。文字が入っていても定義域のある二次関数の最大・最小問題の基本は軸と定義域の両端との位置関係で決まることを再度確認したい。

### 3 分析のまとめと指導上の改善

<分析のまとめと課題>

#### (1) 本質的な理解力、活用力・応用力が不足しているため正答率が低い

毎年ほぼ共通である基礎・基本を問う問題 1, 3, 10, 12, 13, 14 では、正答率が大きく上昇した 12 を除き、昨年とほぼ同程度と考えられ、基礎・基本事項についての指導が充実してきていると考えられる。

問題 2, 5, 7, 8, 15 のように、省略された数字や絶対値などの記号の意味を読み取ることや、数直線上やグラフから必要な条件を読み取るなどの応用的な扱い方をする問題、また、問題 17 のように複数の図形の基本的性質を総合的に活用する問題は昨年に続き、極端に正答率が低かった。

#### (2) 数学を学ぶ楽しさや考える意欲

問題 1, 5, 7, 10 のように、正しい式変形を確実に行えば必然的に正答が得られるような問題は、正答率が高く無答率も低いことから、日頃の学習で、基礎的な問題の反復練習が行われ、積極的に解答しようという姿勢があることが窺える。これは、数学に対して興味・関心を持たない生徒が少しずつ減少してきていると見ることもできる。

問題 4 のように複数の文字を扱う問題のときに、1 つの文字に着目して整理することのよさや、問題 18 のように、二次関数の値がどのように変化するかを、グラフを通して調べることや理解しようとする姿勢が身に付いていないため、正答率が低くなっている。

**課題 1：数学を学ぶ楽しさや学ぶ意欲を向上させる指導や根気強く考えさせる指導の工夫が必要である。**

#### (3) 論理的な思考力

平方根を利用して（解の公式を導く過程）解く問題 11 の正答率は問題 12 よ

<指導改善のポイント>

数学を学ぶ意欲を向上させるために、数学を学習する楽しさや意義、数学的な見方や考え方のよさを実感させる授業を工夫する。

数学を学習する意義、数学的な見方や考え方のよさ、数学の美しさ、文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解させ、日常生活で体験する事柄を数理化するなど、現実の生活を反映した問題を多く扱い、生徒がその内容の必要性を感じられるような授業展開を考えることにより、数学への興味・関心をもたせ、学習意欲を高めることを大切にして指導する必要がある。

論理的に思考する力を育成するために、思考力を互いに高め合う指導を工夫する。

授業において「公式や定理がなぜ成り立つのか。」という視点を重視するとともに、そのことについてじっくりと思考させる。具体例を一つ説明して、すぐ一般化するのではなく、問題の解法が公式や定理を導く過程と一致している具体例をできるだけ多く扱うことによって、公式や定理が役に立つことに気付かせることや、その途中過程を他の場面に応用できるような指導を工夫する。

発問を工夫し、数学の学習を単に問題を解いて答えを求めるなどの知識の習得や技能の習熟にとどめるのではなく、学習の必要性に気付かせ、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることが大切である。

発表や検討（練り合い）などの様々な数学的活動を授業に取り入れて、自分の考えを論理的に思考させ表現させる機会を設定する。自分の考えだけでなく、他の人の意見の中に数学的な見方や考え方のよさを見つけることや、他の人に分かりやすく説明しようとすることによって、自分の思考過程を振り返らせることは、知識・理解を定着させることに有効である。

論理的に表現する力を育成するために、用語・記号を丁寧に説明するだけでなく、数学的



りも約 20 ポイント下回った。二次方程式の解を求めることも大切であるが、どのような方法で解が求められるかを思考させることも、数学的な見方や考え方に触れる上で大切なことである。

問題 19 のように、文字を含む式において、文字の値を変化させてグラフの位置を考察し、その変化にともない最大・最小となる場合を論理的に分析する力が不足している。

**課題 2：公式や定理がなぜ成り立つのかを考えることや、グラフの値の変化について視点を変えて考察するなど、様々な数学的活動を通して論理的に思考させる機会が少ない。**

#### (4) 問題文の読解力と立式、グラフや図の活用

問題 9 の正答率が 5 割弱であったことから、問題文から式を立てる段階での誤りが多く、「以上・以下」の言葉と不等号との関係や「時間・距離・速さ」の関係が聞かれると正答率が急激に下がる傾向がある。

問題 17 など、放物線の対称性と長方形の対称性を関連させて処理する問題であるが、式を立てて解く方法に固執しているための誤答や無答が多かった。

問題 15 においては、求める二次関数が通る点の座標をグラフから読み取り解く問題であるが、頂点の座標が読み取れる問題であるにもかかわらず、正答率は 3 割強であった。常にグラフや図を考えながら解くことや、図やグラフから必要な情報を読み取る力が不足しているようである。

**課題 3：数学の用語や記号を用いて書かれた文章を式やグラフ・図を用いて表現することや、式やグラフ・図から必要な情報を読み取り、それを活用する力が不足している。**

な表現に慣れさせる工夫をする。

数学の問題を解答する上で、一番大切な立式することの指導を工夫する必要がある。正しく問題文の内容を把握しているか、分析しているかを発問・発表や検討(練り合い)などの様々な形式で確認していく指導案を作成していく必要がある。

数学で用いられる用語や記号については、授業で説明するだけでなく、事象を自分の言葉で表現させ、その表現をさらに数学的な表現に発展させていくことや、逆に、式や記号で表現されていることを、自分の言葉で表現し相手に分かりやすく説明できるような内容を含む授業を工夫する。

数学の用語や記号を用いて書かれた文章などを理解し処理するために、グラフや図を活用しながら、常に具体化させて思考させることを重視する。

文字を含む問題については、文字のまま処理していかないで、常に文字を具体的な数にした場合をいくつか比較し、実感が伴った分析ができるようにする。

ICT を積極的に活用して、文字を含む式で与えられた図形やグラフが、文字の値の変化にともなってどのように変化していくかを視覚的にとらえさせたりするなど、生徒に事象の変化や動きを実感させる様々な工夫が必要である。

式だけが条件として与えられている問題についても、式変形だけで思考させず、グラフを利用して考えるとどうなるのか、表を作って変化の様子や成り立つ関係を予想させる。また、図形を用いて関係を表現し、位置関係や性質を理解することによって状況を把握していくなど、様々な方法を用いて思考させる工夫をする。



一方的な授業にならないよう、数学的活動を工夫して授業を実践することにより、創造性の基礎を培い、数学を活用する能力と態度を育成することが今後求められる。

# 学科群別正答率一覧

問題番号	記号	ねらい	全体正答率	普通科	職業系専門学科	その他の学科
			51.2	55.6	29.0	49.3
1	アイ	分配法則を用いて式の展開ができる	63.3	70.0	41.1	61.1
2	ウエ	指数法則を用いて式の計算ができる	50.3	57.1	29.6	46.5
3	オカキ	たすきがけによる因数分解ができる	69.8	79.0	41.3	62.6
4(1)	クケ	一つの文字に着目して式を整理できる	71.7	79.1	41.8	73.1
4(2)	コサシ	(1)を利用してやや複雑な式の因数分解ができる	37.4	43.9	12.1	38.0
5	スセソ	無理数を含む式の展開ができる	48.1	56.4	24.0	42.5
6	タ	やや複雑な無理数について分母の有理化ができる	51.4	61.7	20.3	48.8
7	チ	絶対値の記号の意味と無理数と整数の大小関係を理解している	54.0	59.8	31.6	48.1
8	ツ	連立不等式を解くことができる	34.9	38.7	19.9	31.5
9	テ	文章を理解し、不等号を用いて立式することができる	47.5	53.5	28.0	44.7
10	トナ	因数分解を利用して二次方程式を解くことができる	68.6	75.6	46.8	63.5
11	ニ	平方完成を用いて二次方程式を解くことができる	51.3	57.4	33.7	48.7
12	ヌネ	平方完成または解の公式を用いて二次方程式を解くことができる	73.5	81.3	50.8	66.8
13	ノ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	78.9	80.6	67.9	77.5
13	ハ	二次関数のグラフの平行移動について理解している	70.5	74.2	47.5	66.6
14	ヒフ	二次関数の式からグラフの頂点を求めることができる	64.7	68.7	33.8	57.5
15	ヘホマ	グラフの通過点から二次関数の式を求めることができる	34.8	37.5	12.7	33.0
16	ミム	二次関数のグラフの平行移動と対称移動を理解している	29.0	30.0	4.1	27.8
17(1)	メ	二次関数のグラフの軸を理解している	31.6	31.8	10.5	35.3
17(2)	モヤ	二次関数のグラフの対称性を利用して、2つのグラフの位置関係を考察できる	12.4	12.4	4.1	14.8
18	ユ	二次関数のグラフを通して、二次関数の値の変化を考察できる	60.7	62.3	37.0	60.8
18	ヨ	定義域の意味を理解し、二次関数の最大値を求めることができる	51.2	52.9	27.1	51.3
18	ラ	定義域の意味を理解し、二次関数の最小値を求めることができる	65.1	67.4	34.5	61.9
19	リル	二次関数の定義域の範囲の変化に伴って変わる最大値と最小値の差を、定義域と軸の位置関係を考察して求める力をみる問題である。	49.9	50.2	18.5	56.0
19	レロ		9.8	9.6	5.5	13.7

「英語」ペーパーテスト結果と考察

1 出題のねらいと内容

理解力・表現力・思考力を重視しながら、英語によるコミュニケーションを図るために必要な英語力の定着をみることをねらいとした。3年間継続した財団法人日本英語検定協会「英語能力判定テスト」(宮城県版)から、再び県独自問題により実施した。問題構成は、リスニング問題、語彙・熟語・文法問題、整序問題、長文読解問題となっており、英語の基礎・基本から高校1年生前半程度までの学習レベルのものを出题している。

2 設問ごとのねらい、結果の分析と考察

1] リスニング問題：英語による短い話しかけを聞き、流れに沿って適切に応答する力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
1]	ア	3	81.4	18.2	0.4	「1」 6.4 % , 「2」 6.1 % , 「4」 5.7 %
	イ	4	63.9	35.7	0.4	「1」 12.6 % , 「2」 20.0 % , 「3」 3.0 %
	ウ	2	22.4	77.1	0.5	「1」 20.9 % , 「3」 29.5 % , 「4」 26.7 %

【考察】

問題ア、イは、それぞれ正答率80%、60%を超えるという結果であり、中学校前半くらいまでに学習する程度の簡潔で基本的な内容であれば、概ね聞き取る力は身に付いていると判断される。一方で、誤答回答に注目してみると、応答文前半の 'No' や 'Yes' のみを回答の判断材料としている可能性がある。'Yes' や 'No' の後に続く表現に注意を払い、文全体の意味を把握する力が必要である。問題ウは、予想を超える正答率の低さであった。原因としては、勧誘表現である 'Why don't we ~?' の意味が理解できなかったことが考えられる。一番回答率の高かった3番を選択した理由については、発話者の文中の 'picnic' 等の単語のみを部分的に聞き取り、ピクニックの場所を尋ねるのではないかと推測して 'Where' と応答したことが考えられる。

2] リスニング問題：絵を見ながら会話と質問を聞き、適切に答える力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
2]	エ	3	94.1	5.6	0.3	「1」 2.1 % , 「2」 2.1 % , 「4」 1.5 %
	オ	1	61.6	38.1	0.3	「2」 17.8 % , 「3」 14.4 % , 「4」 5.9 %
	カ	2	51.1	48.5	0.4	「1」 4.7 % , 「3」 9.4 % , 「4」 34.3 %

【考察】

問題エは、内容的には基本的な英語のやりとりではあるが、正解を導くためには最後まで集中して聞く必要がある。このような設問で90%以上の正答率となったことは意義深い。問題オは、平成16年度と比較するための問題であるが、平成16年度の正答率が46.8%であったのに対し、今回は61.6%と大きく上回っており、「英語を聞く力」が上昇していると判断される。問題カについては、51.1%は正解したものの、選択肢4番の誤答率が34.3%と高かった。文脈に沿って、'easy to carry' や 'but...too expensive...' 等の表現を聞き取っていけば理解しやすい流れの会話であるが、文脈を無視して 'bigger one' を 'big' と聞き違えてしまい、そこにのみ注目してしまった場合は4番を選んでしまうことになるだろう。

- 3 リスニング問題：まとまった英文と質問を聞き、内容を正しく理解し、適切に答える力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
3	キ	2	69.4	30.2	0.3	「1」 8.5 % , 「3」 9.5 % , 「4」 12.3 %
	ク	4	46.6	53.0	0.4	「1」 38.2 % , 「2」 10.2 % , 「3」 4.5 %
	ケ	3	47.5	52.1	0.4	「1」 10.6 % , 「2」 15.3 % , 「4」 26.1 %
	コ	4	42.9	56.7	0.4	「1」 36.8 % , 「2」 11.7 % , 「3」 8.2 %

【考察】

問題キは、'how I spend my free time' が聞き取れ、更に選択肢の英語 'His hobbies' が理解できれば間違いなく正解できる問題であろう。問題クは、正答率が半分以下となった。38.2%の高い誤答率となった回答は「1 At an airport.」であったが、これは回答者の「経験」と照らしあわせて考えたことも一因と思われる。すなわち、生徒の日常生活においてデパートの中で英語によるアナウンスを聞くことはまずないであろうということと同時に、'Okinawa' や 'off', 'stop' といった平易な語句を、航空のイメージと絡めて判断した可能性もある。問題ケ、コについては、語彙は基本的なものが用いられている一方で、英文を聞きながらイメージーションを働かせて情報を整理していく（問題ケ＝位置関係を頭の中で地図に描いていく、問題コ＝学校祭のプログラムを時間軸で考えていく）ことが要求される問題であり、その点で難易度が高めになっている。

誤答の原因を考え、「間違いを起こした理由」を浮かび上がらせ、その点を補う復習の指導は効果的な学習になる。それが、「分かる」授業にもつながると思われる。

- 4 語彙・熟語・文法問題：英語によるコミュニケーションを図るために必要となる基礎的・基本的表現、語法など、言語に関する知識・理解をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
4	サ	3	56.5	43.2	0.2	「1」 24.3 % , 「2」 14.7 % , 「4」 4.2 %
	シ	4	75.8	23.9	0.3	「1」 9.4 % , 「2」 8.2 % , 「3」 6.3 %
	ス	1	63.0	36.7	0.2	「2」 10.5 % , 「3」 14.3 % , 「4」 11.8 %
	セ	3	67.6	32.2	0.2	「1」 8.1 % , 「2」 19.2 % , 「4」 4.8 %
	ソ	1	35.1	64.7	0.2	「2」 43.2 % , 「3」 12.5 % , 「4」 8.8 %
	タ	4	22.5	77.2	0.4	「1」 30.3 % , 「2」 29.0 % , 「3」 17.9 %
	チ	2	77.5	22.3	0.2	「1」 13.2 % , 「3」 5.3 % , 「4」 3.7 %
	ツ	4	52.5	47.0	0.4	「1」 8.3 % , 「2」 8.8 % , 「3」 29.8 %
	テ	3	65.5	34.2	0.4	「1」 5.4 % , 「2」 7.4 % , 「4」 21.3 %
	ト	3	71.9	27.8	0.3	「1」 9.7 % , 「2」 13.1 % , 「4」 4.9 %
	ナ	1	37.6	62.0	0.4	「2」 12.5 % , 「3」 18.9 % , 「4」 30.5 %
	ニ	1	65.4	34.3	0.3	「2」 18.1 % , 「3」 8.5 % , 「4」 7.6 %
	ヌ	4	66.5	33.0	0.5	「1」 12.7 % , 「2」 10.2 % , 「3」 10.1 %
	ネ	2	31.5	67.9	0.6	「1」 18.0 % , 「3」 18.4 % , 「4」 31.4 %
ノ	3	35.2	64.2	0.6	「1」 13.7 % , 「2」 36.2 % , 「4」 14.2 %	

【考察】

回答数の最も多かった選択肢と正答が一致しなかったのは、問題ソ、タ、ノの3問。いずれも対話形式であり、'How about ~ ing?' や 'wrong with ~' といった、会話に頻出する表現への理解が不十分であった。また、命令文に続く 'or' の使用や、接続詞 'though' と 'because' の使い分けなど、文法力以外にも論理的な思考が求められる問題を苦手とする解答者の姿が浮かび上がった。一方、受動態、現在完了、比較などの基本を問う問題シ、ス、セに対しては、いずれも正答率が60%を上回った。なお、問題タ、テについては、過去との比較問題として出題したが、正答率は問題タが平成15年度は21.4%だったのに対し、今回は22.5%、問題テは平成16年度が63.5%だっ

たのに対し、今回は 65.5 %と若干ながら向上している。

- 5 整序問題：与えられた語句を正しい語順に並びかえて英文を構成することにより、言語に関する知識・理解と表現する力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
5	ハ	3	61.4	37.8	0.8	「1」 7.0 % , 「2」 18.8 % , 「4」 12.0 %
	ヒ	1	31.2	68.0	0.8	「2」 13.0 % , 「3」 21.9 % , 「4」 33.1 %
	フ	4	73.7	25.5	0.8	「1」 10.8 % , 「2」 8.0 % , 「3」 6.7 %
	ヘ	2	48.6	50.8	0.6	「1」 12.9 % , 「3」 13.9 % , 「4」 23.9 %
	ホ	4	40.8	58.2	1.0	「1」 23.2 % , 「2」 23.5 % , 「3」 11.5 %

【考察】

問題ハは、'tell + O + (not) to do ...' を正しく使うことができるかをみる問題である。約 2 割の生徒が 'tell to + 人 + (not) do ...' のように誤って使っていた。'tell' と 'say' の語法を混同していると思われる。問題ヒは、'S + V + C(= that 節)' を使うことができるかをみる問題であり、単純な文型であるが、予想通り正答率は低かった。生徒の約 3 割が 'I visited my friend is ...' と考えたようだ。'The fact [problem/trouble] is that + S + V...' は高校で習う構文なのでまだ十分定着していなかったと考えられる。問題フは、'it is ... for A to do ~' の構文である。予想を上回る高い正答率であった。様々な場面で何度も繰り返し練習している成果であろう。問題ヘは、間接疑問を正確に使うことができるかをみる問題である。最も多い誤答は、予想された通り 'Do you know where can I get the ticket?' であった。間接疑問等、重要項目に関する間違いは、ライティングだけでなくスピーキングの場面においてもタイミングをとらえて訂正し、注意を向けさせる必要があるだろう。問題ホのねらいは、次の 2 つである。①従属接続詞 if 「もし～なら」を従属節の始めに使うこと。②時や条件を表す副詞節の中では未来のことも現在形で表すこと。これに対応して誤答にも 2 つのパターンが見られた。×「3」 If the game will be held it is fine tomorrow. ×「1」 The game is be held if it will fine tommorrow. 'be held' を知らないことも、誤答の要因の一つと思われる。

- 6 長文問題：手紙文を読んで、その概要・要点を理解し、書き手の意向を読み取る力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
6	マ	3	75.1	24.3	0.7	「1」 13.2 % , 「2」 7.1 % , 「4」 3.9 %
	ミ	2	82.9	16.4	0.7	「1」 7.0 % , 「3」 5.3 % , 「4」 4.0 %
	ム	3	68.7	30.4	0.9	「1」 9.2 % , 「2」 9.9 % , 「4」 11.2 %
	メ	4	53.8	45.3	0.9	「1」 16.3 % , 「2」 21.2 % , 「3」 7.8 %
	モ	3	58.9	40.0	1.1	「1」 20.2 % , 「2」 11.0 % , 「4」 8.7 %

【考察】

全体的に正答率の高い結果となっており、基礎的な英文の内容を大まかに把握する読み取りの力はある程度身に付いていると言える。しかし場面転換や状況の変化、時間の流れを正確に把握できずに読み進めている様子も誤答率となって表れている。

問題マは、手紙を書いた人は誰かを問う問題となっている。冒頭に 'Dear Mary' とあるものの、手紙を書いた人は 'Mary' と答えた誤答率が 13.2%と高い。普段の生活で手紙を書くことに不慣れなことも予想されるが、誕生日のメッセージカードを英文で書くなどという activity を通して、手紙の形式に慣れるだけでなく、英語文化に対する理解を育むことも大切である。また、生徒の語彙力や表現力を養成するためにも、手紙や e-mail, 広告などの英語独特の表現形態に親しむ機会を増やすことも必要だと思われる。

問題メは、'not only ... but also ~' の構文の定着が不十分であること、質問文の主語は誰なのか判断できないこと、手紙文自体の意味が理解できていないこと等の理由から、誤答率が高くなった

と考えられる。同様に、問題モにおいて誤答率の高かった選択肢1は、長文に出てきた単語だけを頼りに選んだ可能性が高く、完全に内容全体を把握するまでに至っていないことが推測される。長文においては、速読とともに正確な読解力が求められる。筆者の意図を正確に読み取るためには、既習の文法事項の確認だけでなく、文構造を意識しながら読み進めていく学習活動を普段から増やす必要がある。授業では、教師と生徒間での 'interact' や、生徒同士の 'pair activity' などを多用し、平素から 5W1H を使った簡単な質問のやりとりを行うことで、同じ内容を言い換える表現能力を高めること、また構文理解の定着を図り、伝えたいことを適切な英文を用いて表現できる能力を高める練習をすることが求められる。

7 長文問題：説明文を読んで、その概要・要点を理解し、的確に内容を読み取る力をみる問題。

解答記号	正解	正答率	誤答率	無答率	選択肢ごとの誤答率	
7	ヤ	3	48.9	49.6	1.5	「1」 28.1 % , 「2」 13.6 % , 「4」 7.8 %
	ユ	2	43.9	54.3	1.8	「1」 18.8 % , 「3」 23.1 % , 「4」 12.3 %
	ヨ	4	30.8	67.3	1.8	「1」 9.2 % , 「2」 12.5 % , 「3」 45.5 %
	ラ	2	40.8	57.1	2.2	「1」 19.1 % , 「3」 16.2 % , 「4」 21.8 %
	リ	4	44.1	53.5	2.4	「1」 18.4 % , 「2」 17.5 % , 「3」 17.3 %

#### 【考察】

平均正答率は 41.7% であり、もう少し上がっても良かったのではないかと。6 の手紙文は基本的なレベルの英文であったが、そこから一段階難しくなった 7 の説明文では、総じて読解力不足が感じられた。文章の内容を大まかに把握する力はある程度身に付いていると言えるが、単語の正確な意味や書き手の意図した説明の流れを的確につかむといった力はまだ不足していると思われる。

正答率の一番低かった問題ヨでは、「3」の誤答が目立ち、'land on' の意味を理解していない生徒が多かったことが表れている。また意味をつかんでいても 'come down to' への言い換えができないケースも推測される。同じく正答率の低かった問題ユやラでは、基本的な単語である 'full' や 'less', 'more' などが含まれているが、それらが文全体の意味に与える影響は大きく、その読み取りの力が不足していることが表れていると言える。

今回の設問の特徴である空所補充のラ、リに関しては、段落ごとに本文の内容を正確に読み取りながら、論理的に質問の答えを探さなければならない点がやや難しかったと思われる。順を追って整理しながら読み進める力をさらに育成するようにしたい。今後、一層語彙力強化にも重点を置きつつ、書き手の意図をくみ取りながら文章全体を把握する力を高めていくために、発展的な学習を進めていくことが大切である。

### 3 分析のまとめと指導上の改善

#### <分析のまとめと課題>

##### (1) リスニングの力について

基本的な英語のやりとりでは、「英語を聞く力」が身に付いている。一方、ある程度まとまりのある文を理解する力はまだ不足しており、養成を図りたい。

◇簡潔で基礎的な表現については概ねよく理解できている。



#### <指導上の改善ポイント>

①聞き取りの力を向上させるために、英語を聞かせる機会を多く設けると同時に、理解の土台となる語彙力を増やす指導の工夫を行う。

○生徒のつまずきの段階を把握し、必要に応じて「中学校での学習内容の学びなおし」も含め、基本的な事項



◆中学校後半以降に学習する語彙レベルの英文や、位置関係・時間軸などやや複雑な情報整理が要求される英文を聞き取る段階になると、内容理解に至る力が不足している。

⇒課題1：多くの英文に触れる経験が足りず、語彙や表現を理解する力が不足している。

### (2) 語彙・熟語・文法の力について

正答率が50%を超えたのは15問中10問。基本的な文法・語法力を問う問題については、正答率が高かった。過年度との比較問題においては、正答率の向上がみられた。ただし、対話形式の問題については、誤答率が高かった。

◇基本的な語彙、文法・語法については、一定の定着が図られている。

◆会話に使われる基本的な表現に対する理解が不足しており、また文の前後関係や相手とのやりとりから流れを判断する問題では正答率が低い。

⇒課題2：基本的な語彙や文法の知識が、会話表現などの発展的・応用的な分野の理解に結び付いていない。

### (3) 表現する力について

中学校で学習する基本的な語法や構文は高校で繰り返し復習することによって定着してきている。一方、高校段階で学習する項目についてはどれも正答率が50%に満たない。また語彙力不足のために正しく表現できていない面が見られる。

◇中学校英語の基本的な定型表現はある程度身に付いている。

◆高校で初めて学習する文法・構文を活用できるレベルまで到達していない。

⇒課題3：高校段階で学習する文法や構文を使って英文を構成する力が不足している。

の定着を図る。

- 英語を聞く機会を多く確保する。
- 生徒に聞き取りのためのポイントやヒントを随時与えて、目的を持ったリスニングを多く経験させる。
- 正確な聞き取りと記憶を助けるためのメモの取り方等を身に付けさせるよう指導を行う。

②語彙力、文法・語法力を養うとともに、バランスよく会話表現の指導にも力を入れるために、相乗的な効果をねらって、文法と会話を有機的に結び付けた学習機会を設定する。

- 小テストなどの基礎的なトレーニングを繰り返すことにより、語彙・文法などの基礎的な知識の定着を図る。
- 生徒の実態を考慮しながら、オーラル・コミュニケーション以外の授業でも英語使用の機会を増やす。
- ALTを活用した会話中心の授業においても、既習の単語・文法事項を仲立ちとして、語彙力・語法力の向上に関連づける。

③表現する力を育成するために、英語で書いたり話したりするためのタスクの活用を図る。

- 新出の文法や構文は理解させるだけでなく、説明した後に整序作文や自由作文などに取り組みせ、実際に使う機会を与える。
- コミュニケーション活動において、練習させたい文法・構文を何度も使うようなタスクを工夫する。
- 単語や熟語はできる限り文または句の単位で練習させる。
- 小テストで単語・熟語だけでなく、新出の文法や構文を使った簡単な英文も書かせる。

#### (4) 読解する力について

長文の読解には、ある一定レベルの語彙力に加え、基本的な構文を把握する力が必要とされる。そのためには、ある程度の量の定型表現や構文の習得が不可欠であり、平素の学習において、語彙力や構文の定着を図る指導の工夫が必要である。

また、描かれている状況や背景を理解するとともに、筆者の意図をくみ取る力も求められる。文構造や段落構成を把握する読解訓練に加えて、文中で述べられている表現を言いかえたり、文脈から登場人物の心情を捉える力等の養成を図りたい。

◇平易な単語から類推し、長文の大まかな内容を把握することはできる。

◆書き手の意図をくみ取って読解するために、多くの情報を整理し、正確に理解する力が不足している。

⇒課題4：書き手の意図をくみ取り、情報を整理し、順序だてて理解を深めるような「実践的な読み」が不足している。



#### ④読む力を養うために、基本的な構文の定着と運用力の向上を図る。その上で、英文を正しく理解しながら筆者の意図を読み取り、さらに読み手の考えを相互に適切に伝えあう力の育成を図る。

- 文法事項を定着させるための取組を強化する。
- 授業内で、音読・暗写・dictation・要約・意見発表等、生徒が英語を実際に使用したり、outputのための時間を十分に確保する。
- 教科書以外でも良質な長文を吟味・選択し、多読させる。
- 英語特有の論理構造の理解を促すために、スキミングやスキニング、パラグラフ・リーディング等様々な読解指導を体系的に行う。
- Q and A や T or F 等によって、日本語を介さずに英語による理解を促す。

Globalization が進む状況にあって、国際言語としての英語の役割が日々重要になってきている。教育現場では、ますます実践的な英語教育が求められる中、生徒が主体的に活動できるよう、実態に応じて指導する工夫をしなければならない。訳読のみの単調な指導ではなく input - output の練習・訓練の強化や、ALT の活用を促して生徒の motivation を高める工夫を行うこと、英語を聞いたり書いたりするスピードを意識した活動等を積極的に行うことが望まれる。

## 学科群別正答率一覧

問題番号	記号	正答	全 体	普通科	職業系	その他	
			正答率(%)		専門学科	の学科	
			55.2	61.0	38.0	54.6	
1 リスニング	(1)	ア	3	81.4	85.7	68.4	82.1
	(2)	イ	4	63.9	71.6	41.3	61.9
	(3)	ウ	2	22.4	26.1	10.9	22.9
2 リスニング	(1)	エ	3	94.1	95.6	89.3	95.5
	(2)	オ	1	61.6	66.7	46.9	60.1
	(3)	カ	2	51.1	57.8	30.7	52.2
3 リスニング	(1)	キ	2	69.4	77.4	46.9	65.1
	(2)	ク	4	46.6	52.5	29.1	46.4
	(3)	ケ	3	47.5	51.7	34.9	47.5
	(4)	コ	4	42.9	50.2	21.7	40.9
4 文法・語法	(1)	サ	3	56.5	64.4	34.0	53.4
	(2)	シ	4	75.8	83.7	52.4	74.8
	(3)	ス	1	63.0	73.9	33.1	54.7
	(4)	セ	3	67.6	73.6	50.8	64.2
	(5)	ソ	1	35.1	40.4	19.4	34.4
	(6)	タ	4	22.5	25.3	11.7	28.9
	(7)	チ	2	77.5	84.4	57.6	75.1
	(8)	ツ	4	52.5	61.8	25.6	49.7
	(9)	テ	3	65.5	74.8	38.5	62.2
	(10)	ト	3	71.9	78.4	53.3	69.1
	(11)	ナ	1	37.6	40.1	29.9	37.8
	(12)	ニ	1	65.4	72.0	46.7	61.1
	(13)	ヌ	4	66.5	73.1	47.9	63.3
	(14)	ネ	2	31.5	35.1	20.6	31.9
	(15)	ノ	3	35.2	34.3	35.5	41.8
5 整序	(1)	ハ	3	61.4	67.7	43.0	60.1
	(2)	ヒ	1	31.2	34.2	22.2	31.1
	(3)	フ	4	73.7	81.1	52.9	70.0
	(4)	ヘ	2	48.6	53.4	34.9	46.6
	(5)	ホ	4	40.8	46.7	21.9	43.3
6 手紙文	(1)	マ	3	75.1	82.4	54.3	71.2
	(2)	ミ	2	82.9	87.8	68.5	82.8
	(3)	ム	3	68.7	76.4	46.6	65.2
	(4)	メ	4	53.8	61.3	31.0	53.8
	(5)	モ	3	58.9	67.2	34.3	58.0
7 説明文	(1)	ヤ	3	48.9	57.2	24.5	47.5
	(2)	ユ	2	43.9	49.1	27.1	47.5
	(3)	ヨ	4	30.8	33.4	22.1	34.3
	(4)	ラ	2	40.8	44.5	28.7	42.9
	(5)	リ	4	44.1	48.4	28.9	51.0

## 平成21年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(1学年)

## Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20
19.4	40.4	52.0	25.0	22.5	<b>34.7</b>	33.1
10.9	15.6	12.4	6.0	7.0	<b>10.6</b>	11.2
2.9	2.9	2.6	4.4	3.6	<b>3.3</b>	3.6
16.5	14.0	11.4	18.8	22.9	<b>16.2</b>	15.8
26.3	11.6	6.9	21.7	19.5	<b>15.5</b>	16.2
4.4	2.5	2.5	5.7	5.7	<b>4.0</b>	2.9
0.4	0.3	0.1	0.4	0.7	<b>0.3</b>	0.3
14.4	11.5	11.0	16.4	15.7	<b>13.5</b>	13.9
4.7	1.0	1.0	1.7	2.1	<b>1.8</b>	2.0
0.0	0.2	0.1	0.0	0.3	<b>0.1</b>	1.0

- ①の国公立希望が1.6ポイント増加したが、②の私立大学、③の短大進学希望者は、それぞれ0.6,0.3ポイント減少。
- ・大学進学希望者(①～③)としては、48.6%で、昨年度より0.7ポイント増加。
- ・④の専修学校・各種学校は0.4ポイント増加し、⑤の民間就職は0.7ポイント減少。

## Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20
56.1	51.7	52.3	51.3	50.5	<b>52.0</b>	50.1
9.0	9.9	9.4	10.5	12.4	<b>10.3</b>	10.4
20.7	21.9	22.0	23.6	20.1	<b>21.8</b>	21.6
8.4	10.6	10.9	9.0	10.8	<b>10.2</b>	10.9
5.7	5.4	5.3	5.6	5.8	<b>5.5</b>	5.6
0.1	0.4	0.1	0.0	0.3	<b>0.2</b>	1.4

- ・「卒業までに絶対達成しようと考えている者」及び「卒業後1、2年かかっても達成したいという者」が1.8ポイント増加。
- ・③のように進路に対してのこだわりが弱い層が0.2ポイント増加。
- ・④⑤のような進路意識の希薄な層が0.8ポイント減少。

○自分の進路を1年時から段階的に考えることができるよう、キャリア教育を体系化して行う必要がある。

## Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20
10.8	11.7	11.9	10.6	11.3	<b>11.4</b>	11.2
14.2	12.5	12.5	13.7	12.0	<b>12.8</b>	12.7
12.8	13.0	13.6	11.8	13.4	<b>13.0</b>	11.5
1.1	0.9	1.4	1.0	1.0	<b>1.1</b>	1.1
34.9	35.9	34.8	33.3	31.8	<b>34.2</b>	33.1
3.3	2.8	2.6	3.0	3.4	<b>2.9</b>	2.9
19.9	20.2	19.2	23.4	23.0	<b>21.1</b>	21.9
2.6	2.8	3.6	3.0	3.2	<b>3.1</b>	3.5
0.5	0.1	0.4	0.2	0.9	<b>0.4</b>	2.1

- ・①②の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて24.2%。
- ・③の進路に関する動機付けが1.5ポイント増加している。
- ・⑥～⑧の学習に消極的な層は、昨年度より1.2ポイント減少し27.1%。

○学ぶ楽しさを実感させ、学習への意欲を喚起し興味・関心を引き出す授業や教育活動への改善が望まれる。

## Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20
6.2	7.6	7.3	6.3	6.8	<b>6.9</b>	6.4
32.7	39.3	41.6	37.1	36.2	<b>38.2</b>	35.2
48.5	41.0	38.8	43.6	43.7	<b>42.2</b>	43.5
10.2	9.8	9.6	9.8	9.9	<b>9.8</b>	11.1
1.9	1.7	2.3	2.8	2.8	<b>2.3</b>	2.5
0.5	0.5	0.5	0.4	0.8	<b>0.5</b>	1.3

- ・「だいたい理解できると回答した者は①と②を合わせて45.1%で、昨年と比べ3.5ポイント増加。
- ・あまり理解できないと回答した者は④と⑤を合わせて12.1%で昨年度と比べ1.5ポイント減少。

○全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増え、理解できないと感じている層が減少している。分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、引き続き、授業改善に向けて、県の施策のさらなる充実が求められている。

**Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
54.3	62.0	61.2	54.6	58.3	<b>58.7</b>	55.0	① 自分で調べる。
33.3	31.5	33.4	34.8	38.3	<b>34.2</b>	34.7	② 学校の先生に質問する。
73.3	73.1	73.7	75.0	75.3	<b>74.1</b>	71.5	③ 友達に聞く。
20.7	21.5	22.1	17.2	17.7	<b>20.0</b>	18.8	④ 家族に聞く。
11.5	14.3	15.5	9.8	12.6	<b>13.1</b>	13.7	⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
21.4	20.1	19.1	21.8	21.9	<b>20.6</b>	22.1	⑥ そのままにしておく。
3.7	3.0	3.3	4.7	4.6	<b>3.8</b>	4.6	⑦ その他

- ・①の「自分で調べると」回答した者は3.7ポイント増加。
  - ・最も多いのが「友達同士で解決する」場合で、「学校の先生に聞く」は0.5ポイント減少。
  - ・「そのままにしておく」と回答した者も1.5ポイント減少したが依然として多い。
- 生徒の理解度を計画的にチェックすること、学び合いを取り入れた授業等の工夫が必要である。

**Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	得意教科
21.2	18.2	20.1	18.4	19.4	<b>19.3</b>	20.5	① 国語
9.6	11.8	10.1	12.1	9.9	<b>10.8</b>	11.5	② 地理歴史
2.2	3.9	5.5	3.2	4.1	<b>4.1</b>	3.6	③ 公民
17.9	24.0	21.2	19.8	21.6	<b>21.2</b>	20.8	④ 数学
12.5	12.2	12.3	12.5	11.5	<b>12.2</b>	11.0	⑤ 理科
16.3	15.6	17.4	14.4	13.9	<b>15.6</b>	14.4	⑥ 英語
9.2	5.8	5.0	7.0	8.5	<b>6.7</b>	7.1	⑦ 専門教科
10.1	8.1	7.7	11.9	9.8	<b>9.3</b>	9.8	⑧ その他
0.9	0.4	0.7	0.8	1.3	<b>0.8</b>	1.3	⑨ 記入ミス・無答

- ・数学、国語、英語、理科、地理歴史の順番であり、英語と理科が1.2ポイント増加、国語が1.2ポイント減少。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	不得意教科
6.0	11.6	14.7	10.8	12.9	<b>11.9</b>	10.6	① 国語
16.1	10.7	9.1	10.3	11.0	<b>10.8</b>	10.8	② 地理歴史
3.3	2.9	2.7	2.7	3.6	<b>3.0</b>	2.8	③ 公民
33.7	26.8	35.2	29.8	27.4	<b>30.6</b>	29.6	④ 数学
6.6	11.5	8.4	8.2	8.5	<b>8.9</b>	11.2	⑤ 理科
25.8	30.3	25.5	30.5	29.9	<b>28.5</b>	28.2	⑥ 英語
5.0	4.1	1.9	4.4	3.2	<b>3.5</b>	3.1	⑦ 専門教科
2.1	1.9	1.5	2.0	2.0	<b>1.9</b>	2.0	⑧ その他
1.4	0.3	0.9	1.3	1.5	<b>1.0</b>	1.7	⑨ 記入ミス・無答

- ・数学、英語、国語、地理歴史、理科の順番。
  - ・昨年度と比べ、理科を不得意とする回答の割合が2.3ポイント減少。
  - ・昨年度と比べ、国語を不得意とする回答の割合が1.3ポイント増加。数学、英語はわずかに増加。
  - ・数学及び英語は、昨年と同様に不得意が得意を上回っている。理科については得意が不得意を上回った。
- 数学又は英語を不得意と感じている生徒が約6割にのぼることから、それらの生徒に対し基礎的内容の学び直し及び学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。

**Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
12.5	16.2	23.4	19.2	10.9	<b>17.4</b>	15.4	① ほとんど毎日出ている。
39.0	37.3	36.4	29.0	31.2	<b>34.4</b>	33.4	② 週に2～3回出ている。
35.5	32.9	33.6	37.5	30.5	<b>33.9</b>	36.7	③ 週に1回ぐらい出ている。
12.6	13.3	6.5	14.2	26.9	<b>14.1</b>	13.6	④ ほとんど出していない。
0.4	0.3	0.1	0.1	0.4	<b>0.2</b>	0.9	⑤ 記入ミス・無答

- ・①～③を合わせて、週あたり1回以上宿題・課題が出される割合が昨年度より0.2ポイント増加。
- ・ほとんど宿題が出されない割合は0.5ポイント増加。

**Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
6.0	15.3	10.2	12.9	12.4	<b>11.9</b>	11.1	① ほとんど毎日ある。
22.6	26.0	44.4	29.5	25.2	<b>31.2</b>	31.1	② 週に2～3回ある。
48.4	27.5	33.3	25.0	31.1	<b>31.5</b>	32.6	③ 週に1回ぐらいある。
22.6	31.0	11.9	32.5	30.9	<b>25.1</b>	24.3	④ ほとんどない。
0.3	0.2	0.2	0.1	0.4	<b>0.2</b>	0.9	⑤ 記入ミス・無答

- ・①～③を合わせて、週あたり1回以上テストが実施される割合は昨年度より0.2ポイント減少。
- ・ほとんどテストが実施されない割合は0.8ポイント増加。

**Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H2O	
38.6	34.3	33.5	38.6	34.3	<b>35.4</b>	35.1	① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
4.5	6.1	8.1	5.9	5.1	<b>6.3</b>	6.6	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
36.3	41.1	41.6	35.9	37.3	<b>38.9</b>	39.0	③ 興味や関心がもてるような授業
12.3	13.7	13.7	13.8	15.3	<b>13.9</b>	12.9	④ 進路希望達成につながる授業
8.2	4.6	3.0	5.8	7.5	<b>5.3</b>	5.3	⑤ 資格取得につながる授業
0.2	0.2	0.1	0.0	0.5	<b>0.2</b>	1.1	⑥ 記入ミス・無答

- ・昨年度同様、興味・関心がもてる授業を期待する声が最も高い。
  - ・次いで基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望んでいる。
- 生徒の期待に応えるこれらの授業や体制を実現する授業改善や体制づくりに向けて、各校のさらなる取組が望まれる。

**Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H2O	
31.9	28.3	24.8	33.0	37.5	<b>30.4</b>	32.4	① 全く、またはほとんどしない。
13.1	12.9	11.4	12.5	12.5	<b>12.4</b>	11.9	② 30分より少ない。
16.0	17.3	19.5	16.4	15.1	<b>17.2</b>	17.2	③ 30分～
24.1	26.8	28.1	24.7	21.4	<b>25.4</b>	24.2	④ 1時間～
11.7	11.6	12.4	10.7	10.2	<b>11.4</b>	10.5	⑤ 2時間～
2.0	2.2	2.9	2.2	2.0	<b>2.3</b>	2.3	⑥ 3時間～
0.5	0.4	0.5	0.3	0.7	<b>0.5</b>	0.5	⑦ 4時間～
0.4	0.4	0.4	0.2	0.3	<b>0.3</b>	0.3	⑧ 5時間以上
0.3	0.2	0.0	0.1	0.4	<b>0.2</b>	0.7	⑨ 記入ミス・無答

- ・①の平日に家庭学習をしない者が昨年度より2.0ポイント減少しているものの、30.4%と最も高い割合。
  - ・⑤～⑧の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は、昨年度より0.9ポイント増加し14.5%。
  - ・②～④の合計は昨年度より1.7ポイント増加し55.0%。全体の85.4%は家庭学習時間が2時間未満。
- 家庭学習時間1時間以上の者は37.7% (昨年比1.1ポイント増) であるが、中学2年時点での調査(平成18年度宮城県学習状況調査)では、1時間以上の者が52.8%であったことを考えると、家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加に向けて、さらなる取組が望まれる。

**Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H2O	
30.9	26.1	20.1	33.4	36.7	<b>28.5</b>	30.2	① 全く、またはほとんどしない。
10.8	10.2	7.8	10.4	10.6	<b>9.7</b>	9.3	② 30分より少ない。
11.9	11.1	11.5	13.3	11.7	<b>11.9</b>	11.4	③ 30分～
21.0	21.2	22.8	19.2	17.4	<b>20.5</b>	19.2	④ 1時間～
15.9	16.7	19.5	13.2	13.2	<b>16.0</b>	15.3	⑤ 2時間～
5.6	9.7	10.3	6.6	6.0	<b>8.1</b>	8.0	⑥ 3時間～
2.2	2.6	3.8	2.4	1.9	<b>2.7</b>	3.1	⑦ 4時間～
1.0	1.1	2.3	1.0	1.0	<b>1.4</b>	1.4	⑧ 5時間～
0.1	0.8	1.0	0.1	0.4	<b>0.6</b>	0.6	⑨ 6時間～
0.4	0.1	0.5	0.7	0.3	<b>0.4</b>	0.4	⑩ 7時間以上
0.3	0.4	0.1	0.2	0.0	<b>0.3</b>	1.1	⑪ 記入ミス・無答

- ・休日に家庭学習をしない者が昨年度より1.7ポイント減少し、平日より低い割合。
  - ・2時間以上の回答(⑤～⑩)は29.2%で、0.4ポイント増加。
- 週末課題等の工夫等、休日の家庭学習時間の増加に向けた取組が必要である。

**Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H2O	
13.7	15.3	19.5	14.9	12.8	<b>15.7</b>	15.8	① ほぼ毎日している。
6.5	4.8	4.9	5.6	4.4	<b>5.1</b>	4.4	② 主に平日にしている。
7.6	6.4	8.5	5.8	6.3	<b>7.0</b>	6.6	③ 主に休日にしている。
14.1	14.7	14.4	17.0	17.2	<b>15.5</b>	15.3	④ 主に定期考査前にしている。
6.7	5.4	7.2	5.6	4.5	<b>5.9</b>	5.5	⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
24.1	30.2	24.7	25.0	24.0	<b>25.8</b>	24.8	⑥ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
0.9	1.9	1.5	1.4	1.7	<b>1.5</b>	1.5	⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
13.8	13.3	11.1	13.6	15.7	<b>13.3</b>	13.7	⑧ 気が向いたときにしている。
10.8	6.9	7.2	9.8	10.8	<b>8.7</b>	10.4	⑨ 家庭学習はほとんどしない。
1.2	1.1	0.8	1.1	1.6	<b>1.1</b>	1.2	⑩ その他
0.5	0.1	0.1	0.2	1.0	<b>0.3</b>	0.8	⑪ 記入ミス・無答

- ・①ほぼ毎日している割合は15.7%で昨年度より0.1ポイント減少。
  - ・⑥の主に宿題・課題があるときと定期考査前に家庭学習をするが1.0ポイント増加。②の主に平日に学習が0.7ポイント増加。
  - ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えられる①②の合計は20.8%であるが、依然として約8割の生徒には家庭学習の習慣化がみられない。
- 学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりを通した、家庭学習の推進が望まれる。

**Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
6.4	4.6	4.1	6.2	5.7	5.2	5.6	① 国語
5.8	4.4	4.2	5.6	5.8	5.0	5.1	② 地理歴史
0.7	1.7	1.8	1.7	2.5	1.8	1.7	③ 公民
35.1	43.6	49.0	32.1	34.2	40.0	39.2	④ 数学
5.6	5.2	4.5	6.1	6.2	5.4	5.1	⑤ 理科
18.5	25.5	28.4	26.1	23.6	25.3	24.5	⑥ 英語
16.9	8.4	2.2	10.3	10.8	8.5	8.1	⑦ 専門教科
10.5	6.1	5.7	11.5	10.6	8.4	9.4	⑧ その他
0.4	0.4	0.2	0.4	0.6	0.4	1.3	⑨ 記入ミス・無答

- ・昨年同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・一方で、Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が最も多い。

**Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
14.4	13.0	13.8	17.1	16.2	14.8	14.4	① 家庭学習の方法が分からない。
25.6	29.7	29.0	24.4	25.9	27.3	26.4	② 家庭学習に集中できない。
16.7	14.0	14.5	15.7	15.9	15.1	14.5	③ 学習の計画を立てても長続きしない。
18.1	20.5	20.2	17.2	15.1	18.5	18.6	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.0	6.5	6.5	7.0	7.3	6.7	6.6	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.1	4.2	3.3	2.9	3.0	3.4	3.7	⑥ その他
15.8	11.9	12.5	15.6	16.2	14.1	14.8	⑦ 特に悩みはない。
0.2	0.2	0.1	0.1	0.5	0.2	1.0	⑧ 記入ミス・無答

- ・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。
- ・中でも「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者の割合が高い。
- ・②の「家庭学習に集中できない」が昨年度より0.9ポイントの増加、「学習の計画を立てても長続きしない」が0.6ポイントの増加。
- 昨年度も同様の結果であったが、集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう、家庭との連携を進めていく必要がある。「学習の計画を立てても長続きしない」、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」にも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。

**Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
72.2	79.9	80.9	74.9	74.2	77.2	74.0	① 必ずとる。
15.2	11.9	11.6	13.8	14.3	13.0	14.5	② たいていとる。
6.7	4.0	4.3	5.9	5.8	5.1	5.9	③ とらないことが多い。
5.7	4.0	3.0	5.4	5.3	4.4	4.9	④ 全く、または、ほとんどとらない。
0.2	0.2	0.1	0.1	0.4	0.2	0.7	⑤ 記入ミス・無答

- ・①②の学校に行く前に朝食を必ず又はたいていとる者が90.2%で、1.7ポイント増加している。
- ・③④のきちんと朝食をとる習慣のない者の割合は9.5%で、1.3ポイント減少している。

**Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
4.3	7.2	9.2	5.0	4.3	6.4	6.3	① 家庭学習
24.6	24.9	25.2	25.9	24.7	25.1	24.3	② テレビやビデオ
12.7	14.8	13.8	13.9	14.1	14.0	12.1	③ ゲームやパソコン
23.0	15.6	14.0	21.8	21.2	18.3	19.7	④ 電話やメール
4.0	3.5	4.1	3.1	3.3	3.6	3.5	⑤ 読書
15.5	16.3	16.0	14.9	17.5	16.1	16.4	⑥ 自分の趣味(③, ⑤を除く)
4.5	4.4	4.6	4.0	3.8	4.3	3.9	⑦ 家族との会話
1.3	1.4	1.0	1.6	0.9	1.3	1.4	⑧ 手伝い
9.8	11.7	11.9	9.5	9.4	10.7	11.1	⑨ その他
0.2	0.2	0.2	0.2	0.7	0.3	1.3	⑩ 記入ミス・無答

- ・「テレビやビデオ」、「ゲームやパソコン」、「電話やメール」、「自分の趣味」の時間が多く、この4項目を合わせると73.5%で、Q14の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。
- ・「電話やメール」の割合が昨年度より1.4ポイント減少したが、③の「ゲームやパソコン」の割合は1.9ポイント増加した。
- ・「家庭学習」は0.1ポイント増加。
- 家庭での携帯電話の使用については、家庭で考えてもらうよう学校からの呼びかけ等が必要である。

**Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
6.2	7.0	7.2	6.8	6.9	6.9	6.9	① 全く、またはほとんど見ない。
6.2	6.7	7.5	5.4	5.0	6.3	6.3	② 30分より少ない。
8.7	11.3	13.8	9.3	9.5	10.9	10.0	③ 30分～
22.4	26.3	27.1	23.2	21.8	24.6	24.7	④ 1時間～
24.2	24.6	23.7	24.2	23.5	24.0	23.8	⑤ 2時間～
17.5	13.3	12.2	16.6	17.9	15.0	15.0	⑥ 3時間～
7.8	6.3	5.0	7.8	7.5	6.6	6.9	⑦ 4時間～
6.5	4.3	3.2	6.1	7.1	5.2	5.4	⑧ 5時間以上
0.4	0.3	0.3	0.6	0.7	0.5	1.0	⑨ 記入ミス・無答

- ・3時間以上見ている者は26.8%であり、中でも約9人に1人は4時間以上見ている。
- テレビやビデオの視聴が「家庭学習に集中できない」理由の一つになっていると考えられる。

**Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
37.7	37.0	37.7	39.3	38.8	<b>38.1</b>	41.5	① 全く、またはほとんどしない。
12.9	12.0	14.3	11.2	11.3	<b>12.4</b>	12.6	② 30分より少ない。
12.2	13.8	14.6	12.3	12.9	<b>13.4</b>	12.3	③ 30分～
16.5	18.3	17.4	16.9	17.2	<b>17.4</b>	16.2	④ 1時間～
11.4	11.3	9.3	9.6	10.1	<b>10.2</b>	8.9	⑤ 2時間～
4.8	3.9	3.9	5.9	5.1	<b>4.6</b>	3.7	⑥ 3時間～
2.3	1.6	1.0	1.6	1.8	<b>1.5</b>	1.5	⑦ 4時間～
1.5	1.8	1.6	2.9	2.3	<b>2.0</b>	2.2	⑧ 5時間以上
0.6	0.3	0.2	0.4	0.7	<b>0.4</b>	1.1	⑨ 記入ミス・無答

・「テレビやビデオ」に比べて、平日にゲームを行っている者は少なく、「全く、またはほとんどしない」、「30分より少ない」を合わせると50.5%であり、昨年度より3.6ポイント減少した。

**Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
12.9	15.1	15.2	16.1	14.3	<b>14.9</b>	14.1	① 全く、またはほとんどしない。
21.4	25.2	27.4	20.0	20.3	<b>23.4</b>	21.3	② 30分より少ない。
13.6	16.7	16.7	14.5	14.6	<b>15.5</b>	15.7	③ 30分～
16.3	15.8	16.7	16.4	15.7	<b>16.2</b>	15.9	④ 1時間～
12.1	10.3	10.3	11.8	12.3	<b>11.2</b>	11.5	⑤ 2時間～
10.5	7.0	6.3	8.9	8.9	<b>7.9</b>	8.6	⑥ 3時間～
4.7	3.5	2.6	4.1	5.0	<b>3.8</b>	4.3	⑦ 4時間～
8.2	6.0	4.4	7.9	7.9	<b>6.5</b>	7.3	⑧ 5時間以上
0.4	0.4	0.3	0.3	1.0	<b>0.5</b>	1.3	⑨ 記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、45.6%で、昨年度から2.0ポイント減少。  
 ・3時間以上の者は昨年度より2.0ポイント減少しているが、18.2%もおり「家庭学習に集中できない」要因になっている。  
 ・Q10での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」30.4%の生徒の生活状況が推測できる。

**Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
53.2	60.6	56.5	55.8	57.2	<b>57.0</b>	55.9	① 全く、またはほとんどしない。
19.6	16.0	19.4	20.5	16.8	<b>18.4</b>	18.5	② 30分より少ない。
12.1	11.7	11.0	11.6	10.6	<b>11.3</b>	11.6	③ 30分～
8.8	6.4	8.1	7.3	8.4	<b>7.7</b>	7.5	④ 1時間～
3.0	2.9	2.6	2.8	3.6	<b>2.9</b>	2.8	⑤ 2時間～
1.7	0.9	1.0	1.1	1.8	<b>1.3</b>	1.5	⑥ 3時間～
0.7	0.4	0.3	0.3	0.3	<b>0.4</b>	0.5	⑦ 4時間～
0.5	0.6	0.8	0.4	0.9	<b>0.7</b>	0.7	⑧ 5時間以上
0.4	0.5	0.2	0.2	0.5	<b>0.3</b>	1.0	⑨ 記入ミス・無答

・半数以上の者が「全く、またはほとんどしない」状況で、平日の読書はあまり習慣化されていない。  
 ・1時間以上読書する者は13.0%である。

○朝読書を取り入れている学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

**Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
1.7	3.9	6.4	2.6	3.1	<b>3.9</b>	4.5	① 家庭学習
18.3	20.0	19.4	20.3	20.2	<b>19.7</b>	19.1	② テレビやビデオ
16.1	19.0	17.0	19.1	17.0	<b>17.8</b>	15.3	③ ゲームやパソコン ※ H18 ③ゲーム
15.0	8.1	8.2	14.2	13.1	<b>11.1</b>	12.0	④ 電話やメール
2.8	2.4	2.7	2.2	2.9	<b>2.6</b>	2.6	⑤ 読書
23.5	24.6	24.2	20.5	22.3	<b>23.1</b>	23.3	⑥ 自分の趣味
2.8	3.4	2.9	3.3	3.1	<b>3.1</b>	2.6	⑦ 家族との対話
2.8	1.5	1.4	2.1	1.8	<b>1.8</b>	1.9	⑧ 手伝い
16.3	16.8	17.5	15.1	15.6	<b>16.4</b>	17.3	⑨ その他
0.7	0.4	0.3	0.6	1.0	<b>0.5</b>	1.4	⑩ 記入ミス・無答

・「自分の趣味」の割合が高くなっており、次いで「テレビやビデオ」の順となっている。  
 ・平日と比較すると「自分の趣味」、「ゲームやパソコン」の割合がそれぞれ7.0ポイント、3.8ポイント増加している。  
 ・平日と比較すると「電話やメール」、「テレビやビデオ」、「家庭学習」の割合が、それぞれ7.2ポイント、5.4ポイント、2.5ポイント減少している。



**Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
4.3	4.6	5.2	4.9	5.1	<b>4.9</b>	4.5	① 全く、またはほとんど見ない。
3.1	2.5	2.8	2.9	3.5	<b>2.9</b>	3.0	② 30分より少ない。
4.1	5.0	5.6	4.0	3.9	<b>4.6</b>	4.5	③ 30分～
13.1	13.2	17.2	12.9	11.6	<b>13.9</b>	13.1	④ 1時間～
17.7	21.4	21.7	19.0	18.3	<b>20.0</b>	20.3	⑤ 2時間～
20.7	20.7	20.6	18.6	17.7	<b>19.7</b>	19.7	⑥ 3時間～
11.9	13.3	10.8	13.3	13.1	<b>12.4</b>	12.5	⑦ 4時間～
10.0	8.7	8.3	10.6	11.6	<b>9.7</b>	9.8	⑧ 5時間～
5.4	4.3	2.9	4.9	4.7	<b>4.3</b>	4.4	⑨ 6時間～
8.8	5.8	4.6	8.2	9.2	<b>6.9</b>	6.8	⑩ 7時間以上
1.0	0.5	0.3	0.6	1.3	<b>0.7</b>	1.4	⑪ 記入ミス・無答

- ・2時間から3時間見ている者が最も多く20.0%であり、次いで3時間から4時間見ているものが多く19.7%である。
- ・3時間以上見ている者は53.0%で、昨年度より0.2ポイント減少している。
- ・6時間以上見ている者は、昨年度と同様に11.2%である。

○「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

**Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
29.9	26.8	28.0	32.5	31.1	<b>29.5</b>	33.3	① 全く、またはほとんどしない。
9.6	8.8	10.6	8.5	8.7	<b>9.3</b>	9.9	② 30分より少ない。
9.2	10.1	10.8	7.7	9.1	<b>9.5</b>	8.8	③ 30分～
16.1	18.1	18.5	14.5	15.3	<b>16.7</b>	16.0	④ 1時間～
14.1	14.7	14.1	14.4	13.8	<b>14.2</b>	13.0	⑤ 2時間～
8.4	10.1	8.8	8.9	10.0	<b>9.3</b>	7.8	⑥ 3時間～
4.6	3.9	3.3	4.8	4.0	<b>4.0</b>	3.3	⑦ 4時間～
3.1	2.6	2.6	2.9	2.6	<b>2.7</b>	2.6	⑧ 5時間～
1.3	1.3	0.7	1.5	0.9	<b>1.1</b>	1.2	⑨ 6時間～
2.8	3.2	2.1	3.8	3.5	<b>3.0</b>	3.0	⑩ 7時間以上
0.9	0.4	0.4	0.6	0.8	<b>0.6</b>	1.1	⑪ 記入ミス・無答

- ・休日でもゲームやパソコンをほとんどしない者は29.5%で、昨年度より3.8ポイント減少している。
- ・ゲームやパソコンを行っている者については、平日と同様に1時間以上2時間未満の者が16.7%と最も高い。
- ・7時間以上ゲームやパソコンを行っている者は3.0%で、昨年度と同率である。

**Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
10.3	13.9	13.6	13.5	12.1	<b>13.0</b>	12.9	① 全く、またはほとんどしない。
16.6	20.7	22.3	17.7	16.2	<b>19.2</b>	17.4	② 30分より少ない。
12.1	15.4	15.4	11.7	12.8	<b>13.8</b>	13.8	③ 30分～
16.9	15.3	16.8	14.9	14.9	<b>15.7</b>	14.5	④ 1時間～
12.0	10.4	11.5	12.1	12.0	<b>11.5</b>	12.0	⑤ 2時間～
9.2	8.4	7.7	9.6	9.3	<b>8.7</b>	9.4	⑥ 3時間～
5.8	4.5	4.2	5.6	6.3	<b>5.1</b>	5.4	⑦ 4時間～
6.0	4.5	3.0	5.1	4.5	<b>4.4</b>	4.7	⑧ 5時間～
3.0	1.5	1.3	2.3	2.6	<b>2.0</b>	2.2	⑨ 6時間～
7.5	4.9	4.0	7.1	8.3	<b>6.0</b>	6.3	⑩ 7時間以上
0.5	0.4	0.3	0.4	0.9	<b>0.5</b>	1.4	⑪ 記入ミス・無答

- ・8.0%の者が1日6時間以上もの長い時間を電話やメールで過ごしている。
- ・30分より少ないと答えた者が最も多く19.2%となっている。

○長時間の電話やメールに対して早急に対策を講じる必要があると思われる。

**Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	H20	
58.1	59.7	56.5	59.8	57.7	<b>58.3</b>	57.5	① 全く、またはほとんどしない。
12.5	13.3	14.5	14.0	12.4	<b>13.5</b>	13.8	② 30分より少ない。
9.1	9.0	10.0	9.4	9.1	<b>9.4</b>	9.7	③ 30分～
9.8	8.4	10.1	8.9	9.4	<b>9.3</b>	9.0	④ 1時間～
4.7	4.8	4.5	4.1	5.3	<b>4.7</b>	4.8	⑤ 2時間～
2.3	2.1	2.1	1.6	2.4	<b>2.1</b>	2.2	⑥ 3時間～
1.2	0.8	0.7	0.8	1.1	<b>0.9</b>	0.8	⑦ 4時間～
1.0	0.7	0.7	0.4	0.8	<b>0.7</b>	0.7	⑧ 5時間～
0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	<b>0.3</b>	0.2	⑨ 6時間～
0.8	0.7	0.5	0.6	0.8	<b>0.7</b>	0.5	⑩ 7時間以上
0.2	0.3	0.2	0.1	0.6	<b>0.3</b>	0.8	⑪ 記入ミス・無答

- ・30分より少ないの者が約7割となっており、平日と同様に高い割合になっている。
- ・1時間以上の者は18.7%と平日より5.7ポイント増えているものの、読書の習慣が身に付いているとはいえない。

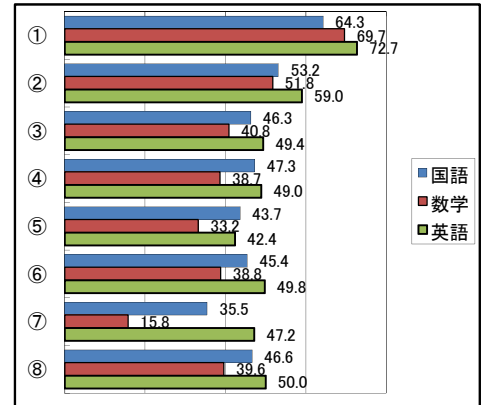
## まとめ

- ・ Q 1 の高校卒業後の進路として 4 年制国立大学、4 年制私立大学希望者が 45.3% であるのに、Q 1 0 平日の家庭学習時間について、2 時間以上実施している者の割合は 14.5% にとどまっている。
  - ・ Q 2 の進路希望の達成についての考えで、「卒業までに絶対達成しようと考えている」者が 5 割を超え、一方で「卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている」者が昨年同様 2 割を超えている。
  - ・ 進路に対する強い意志をもつ者が 5 割を超え、高い進路意識を持つ者が認められるものの、一方で進路に対してのこだわりが弱い層の割合が 2 割を超えた状態で固定化し、自分なりの確固たる意識や目標を持たない傾向が出てきつつあるとも考えられる。また、このような進路意識が、普段の学習に対する考えや姿勢に表れているようである。それは Q 3 の「どんな気持ちで勉強しているか」という問いに対して、「特に考えていない」者の割合が 21.1% であることや、Q 1 0 や Q 1 1 の「家庭学習を全く、またはほとんどしない」者の割合が 30% 前後の割合であることから窺える。
- **学ぶことの楽しさを味わせるとともに、進路指導においては単にその意識を持たせるだけではなく、自分の将来について具体的に考えさせるなどのさらに踏み込んだ指導が必要と思われる。**
- ・ 「理解できない授業が半分以上」という者の割合が、2.8 ポイント減少しているものの 54.3% もいる。
  - ・ 「授業で分からないことがあってもそのままにしておく」者が、1.5 ポイント減少しているものの 20.6% もいる。
  - ・ 生徒は、「基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業」「興味や関心がもてるような授業」を期待していることから、基礎・基本でつまずいたまま、学習に対する意欲を失ってしまう者も少なからずいると思われる。
- **確固たる進路意識や学習に対する前向きな姿勢を育てるためにも、学校においては、生徒の期待に応える魅力ある授業実践を目指して工夫・改善に努める必要がある。**
- ・ 家庭学習の状況を見てみると、学習時間については年々増加してはいるが、残念ながら多くの生徒がまだまだ不十分と思われる。家庭学習に集中できない要因として、テレビやビデオ、電話やメールなどがあげられる。
- **特に、入学時からの家庭学習習慣の定着化に向けた工夫と、家庭での学習環境の整備について学校からの呼びかけが必要である。**
- 以上のことから、高い進路意識とそれに基づく学習に対する姿勢を育てることが、なお一層求められる。家庭学習も含めて、学習環境の整備をさらに推進し、生徒の学力の向上に結びつけたい。それには学校と家庭との連携を一層深めた教育の実践が不可欠であり、学校においては、分かる授業、興味関心を持てる授業、学習意識の向上につながる授業等、生徒へのきめ細やかな対応と指導及び家庭学習習慣の定着に向けた工夫が求められている。

平成21年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査回答別正答率(教科との関連)(1学年)

Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在もっとも強く希望しているのは次のうちどれですか。

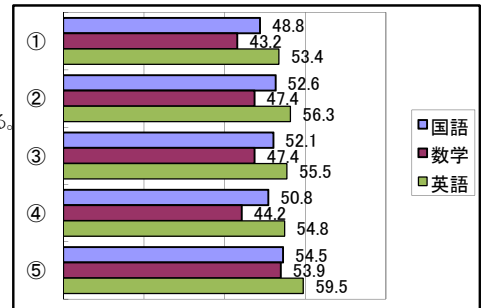
H20	H21	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩																		
33.1	<b>34.7%</b>	4年制国公立大学	11.2	<b>10.6%</b>	4年制私立大学	3.6	<b>3.3%</b>	短期大学	15.8	<b>16.2%</b>	専修学校・各種学校	16.2	<b>15.5%</b>	民間就職	2.9	<b>4.0%</b>	公務員就職	0.3	<b>0.3%</b>	家業	13.9	<b>13.5%</b>	未定	2.0	<b>1.8%</b>	その他	1.0	<b>0.1%</b>	記入ミス・無答



※ グラフの数値は、国語、数学及び英語の正答率

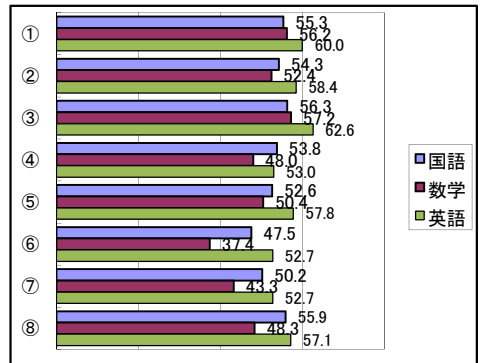
Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

H20	H21	①	②	③	④	⑤	⑥										
50.1	<b>52.0%</b>	卒業までに絶対達成しようと思っている。	10.4	<b>10.3%</b>	達成するまで、卒業後1,2年かかってもかまわないと思っている。	21.6	<b>21.8%</b>	卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。	10.9	<b>10.2%</b>	何とかなるだろうと思っている。	5.6	<b>5.5%</b>	あまり考えないようにしている。	1.4	<b>0.2%</b>	記入ミス・無答



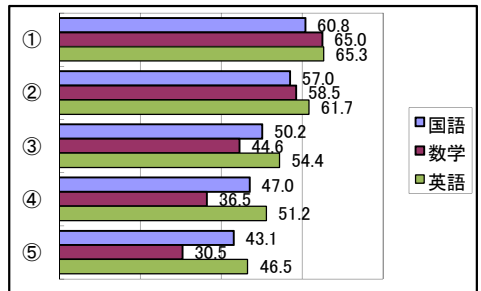
Q3 ふだんどんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

H20	H21	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨																
11.2	<b>11.4%</b>	分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。	12.7	<b>12.8%</b>	多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。	11.5	<b>13.0%</b>	入学試験や就職試験に備えたい。	1.1	<b>1.1%</b>	親や先生にほめられたい。	33.1	<b>34.2%</b>	成績を上げたい。	2.9	<b>2.9%</b>	先生や家族に言われるから勉強している。	21.9	<b>21.1%</b>	特に考えていない。	3.5	<b>3.1%</b>	その他	2.1	<b>0.4%</b>	記入ミス・無答



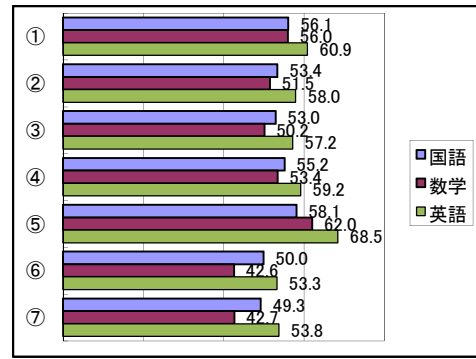
Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

H20	H21	①	②	③	④	⑤	⑥										
6.4	<b>6.9%</b>	ほとんどの授業がよく理解できる。	35.2	<b>38.2%</b>	理解できる授業の方が多い。	43.5	<b>42.2%</b>	理解できる授業と理解できない授業が半分くらいずつある。	11.1	<b>9.8%</b>	理解できない授業の方が多い。	2.5	<b>2.3%</b>	ほとんどの授業が理解できない。	1.3	<b>0.5%</b>	記入ミス・無答



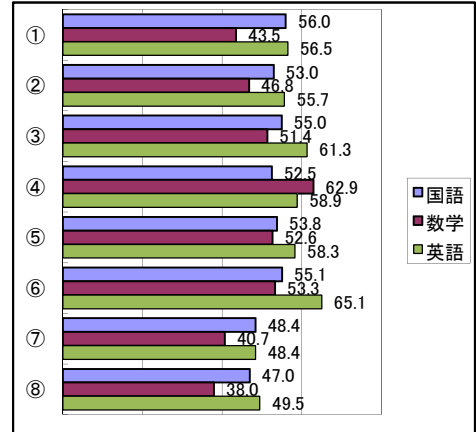
**Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。**

H20	H21	
55.0	<b>58.6%</b>	① 自分で調べる。
34.7	<b>34.1%</b>	② 学校の先生に質問する。
71.5	<b>73.9%</b>	③ 友達に聞く。
18.8	<b>19.9%</b>	④ 家族に聞く。
13.7	<b>13.0%</b>	⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
22.1	<b>20.6%</b>	⑥ そのままにしておく。
4.6	<b>3.8%</b>	⑦ その他
	<b>0.4%</b>	⑧ 記入ミス・無答

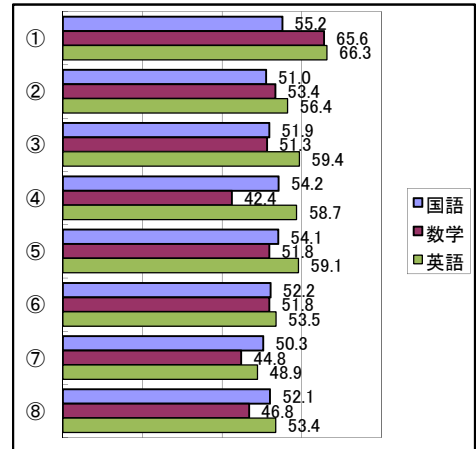


**Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。**

H20	H21	得意教科
20.5	<b>19.3%</b>	① 国語
11.5	<b>10.8%</b>	② 地理歴史
3.6	<b>4.1%</b>	③ 公民
20.8	<b>21.2%</b>	④ 数学
11.0	<b>12.2%</b>	⑤ 理科
14.4	<b>15.6%</b>	⑥ 英語
7.1	<b>6.7%</b>	⑦ 専門教科
9.8	<b>9.3%</b>	⑧ その他
1.3	<b>0.8%</b>	⑨ 記入ミス・無答

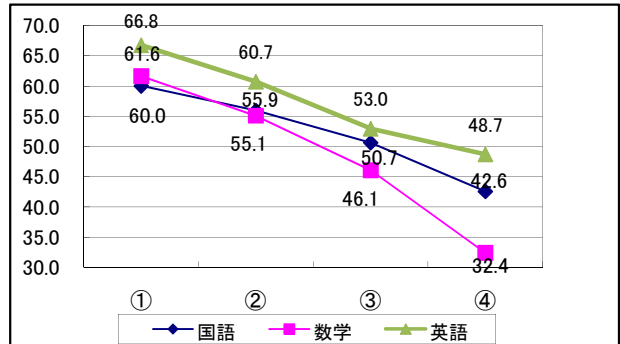


H20	H21	不得意教科
10.6	<b>11.9%</b>	① 国語
10.8	<b>10.8%</b>	② 地理歴史
2.8	<b>3.0%</b>	③ 公民
29.6	<b>30.6%</b>	④ 数学
11.2	<b>8.9%</b>	⑤ 理科
28.2	<b>28.5%</b>	⑥ 英語
3.1	<b>3.5%</b>	⑦ 専門教科
2.0	<b>1.9%</b>	⑧ その他
1.7	<b>1.0%</b>	⑨ 記入ミス・無答



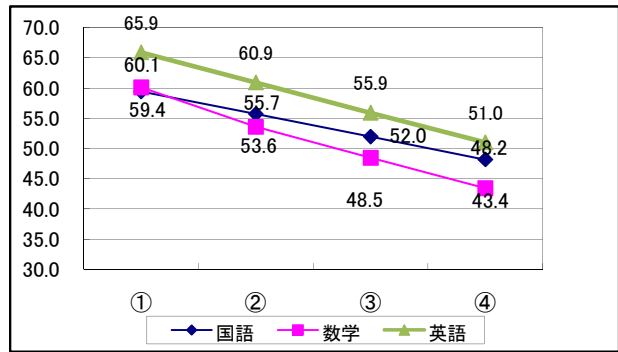
**Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。**

H20	H21	
15.4	<b>17.4%</b>	① ほとんど毎日出ている。
33.4	<b>34.4%</b>	② 週に2~3回出ている。
36.7	<b>33.9%</b>	③ 週に1回くらい出ている。
13.6	<b>14.1%</b>	④ ほとんど出していない。
0.9	<b>0.2%</b>	⑤ 記入ミス・無答



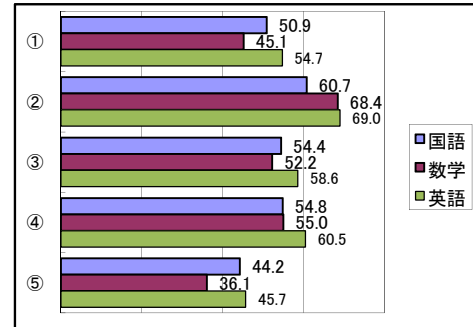
**Q8 学校ではどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストも含む。)がありますか。 ※H20新設した質問**

H20	H21	
11.1	<b>11.9%</b>	① ほとんど毎日ある。
31.1	<b>31.2%</b>	② 週に2~3回ある。
32.6	<b>31.5%</b>	③ 週に1回ぐらいある。
24.3	<b>25.1%</b>	④ ほとんどない。
0.9	<b>0.2%</b>	⑤ 記入ミス・無答



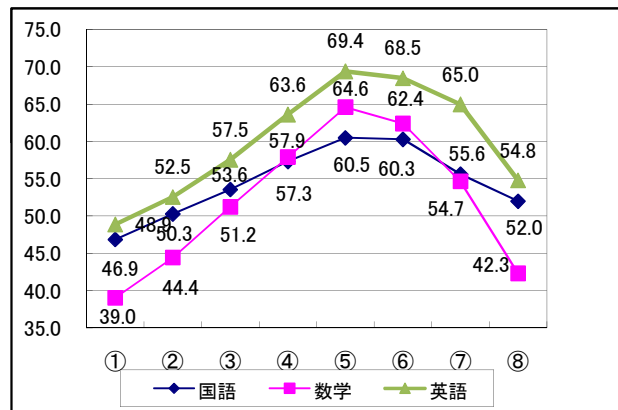
**Q9 あなたが受けたい授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。**

H20	H21	
35.1	<b>35.4%</b>	① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
6.6	<b>6.3%</b>	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
39.0	<b>38.9%</b>	③ 興味や関心がもてるような授業
12.9	<b>13.9%</b>	④ 進路希望達成につながる授業
5.3	<b>5.3%</b>	⑤ 資格取得につながる授業
1.1	<b>0.2%</b>	⑥ 記入ミス・無答



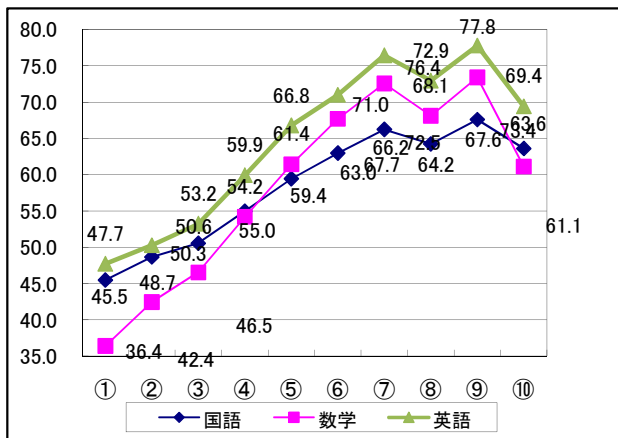
**Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

H20	H21	
32.4	<b>30.4%</b>	① 全く、またはほとんどしない。
11.9	<b>12.4%</b>	② 30分より少ない。
17.2	<b>17.2%</b>	③ 30分~
24.2	<b>25.4%</b>	④ 1時間~
10.5	<b>11.4%</b>	⑤ 2時間~
2.3	<b>2.3%</b>	⑥ 3時間~
0.5	<b>0.5%</b>	⑦ 4時間~
0.3	<b>0.3%</b>	⑧ 5時間以上
0.7	<b>0.2%</b>	⑨ 記入ミス・無答



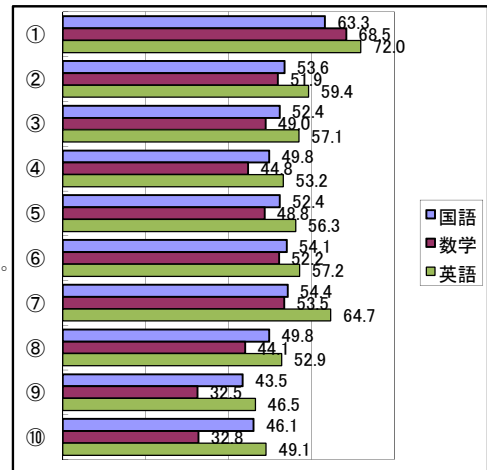
**Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

H20	H21	
30.2	<b>28.5%</b>	① 全く、またはほとんどしない。
9.3	<b>9.7%</b>	② 30分より少ない。
11.4	<b>11.9%</b>	③ 30分~
19.2	<b>20.5%</b>	④ 1時間~
15.3	<b>16.0%</b>	⑤ 2時間~
8.0	<b>8.1%</b>	⑥ 3時間~
3.1	<b>2.7%</b>	⑦ 4時間~
1.4	<b>1.4%</b>	⑧ 5時間~
0.6	<b>0.6%</b>	⑨ 6時間~
0.4	<b>0.4%</b>	⑩ 7時間以上
1.1	<b>0.7%</b>	⑪ 記入ミス・無答



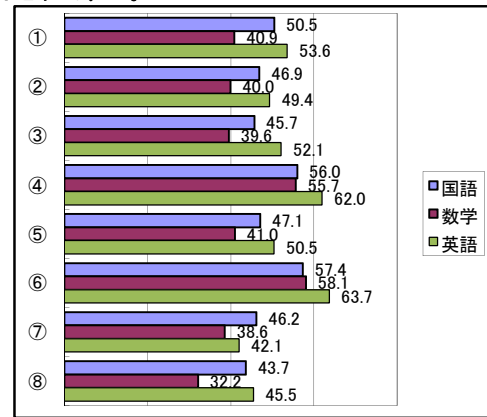
**Q12 家庭学習のしかたに、最も近いものはどれですか。**

H20	H21	説明
15.8	15.7%	① ほぼ毎日している。
4.4	5.1%	② 主に平日にしている。
6.6	7.0%	③ 主に休日にしている。
15.3	15.5%	④ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
5.5	5.9%	⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
24.8	25.8%	⑥ 主に定期考査前にしている。
1.5	1.5%	⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
13.7	13.3%	⑧ 気が向いたときにしている。
10.4	8.7%	⑨ 家庭学習はほとんどしない。
1.2	1.1%	⑩ その他
0.8	0.3%	⑪ 記入ミス・無答



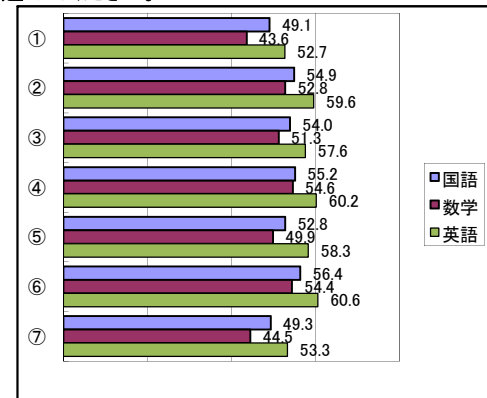
**Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。**

H20	H21	説明
5.6	5.2%	① 国語
5.1	5.0%	② 地理歴史
1.7	1.8%	③ 公民
39.2	40.0%	④ 数学
5.1	5.4%	⑤ 理科
24.5	25.3%	⑥ 英語
8.1	8.5%	⑦ 専門教科
9.4	8.4%	⑧ その他
1.3	0.4%	⑨ 記入ミス・無答



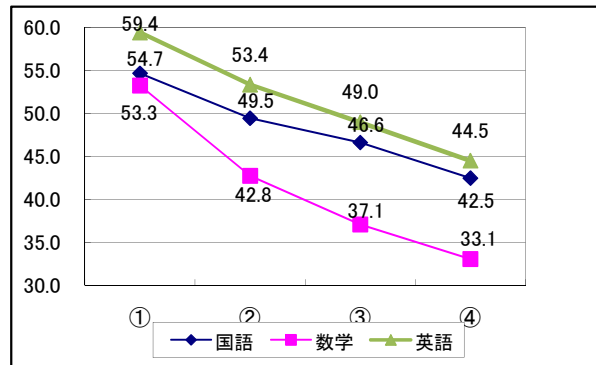
**Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

H20	H21	説明
14.4	14.8%	① 家庭学習の方法が分からない。
26.4	27.3%	② 家庭学習に集中できない。
14.5	15.1%	③ 学習の計画を立てても長続きしない。
18.6	18.5%	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.6	6.7%	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
3.7	3.4%	⑥ その他
14.8	14.1%	⑦ 特に悩みはない。
1.0	0.2%	⑧ 記入ミス・無答



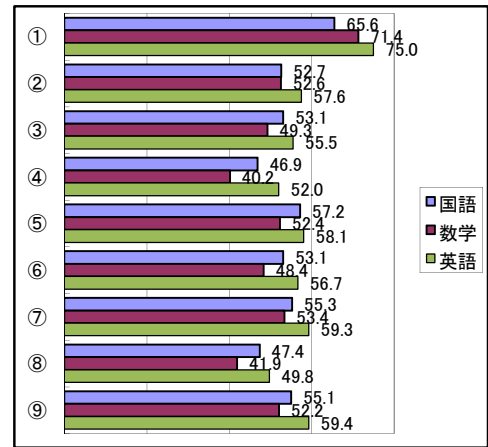
**Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。**

H20	H21	説明
74.0	77.2%	① 必ずとる。
14.5	13.0%	② たいていとる。
5.9	5.1%	③ とらないことが多い。
4.9	4.4%	④ 全く、または、ほとんどとらない。
0.7	0.2%	⑤ 記入ミス・無答



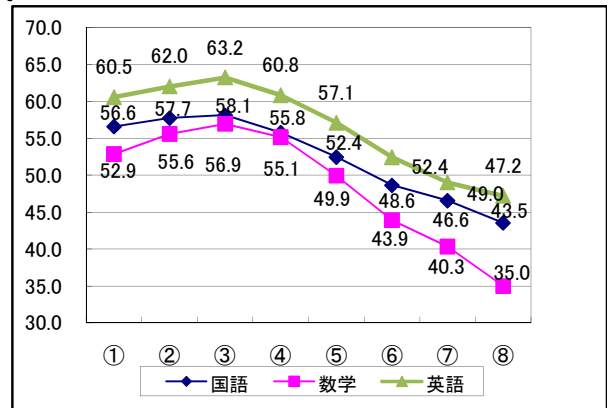
**Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

H20	H21	
6.3	6.4%	① 家庭学習
24.3	25.1%	② テレビやビデオ
12.1	14.0%	③ ゲームやパソコン
19.7	18.3%	④ 電話やメール
3.5	3.6%	⑤ 読書
16.4	16.1%	⑥ 自分の趣味(③, ⑤を除く)
3.9	4.3%	⑦ 家族との会話
1.4	1.3%	⑧ 手伝い
11.1	10.7%	⑨ その他
1.3	0.3%	⑩ 記入ミス・無答



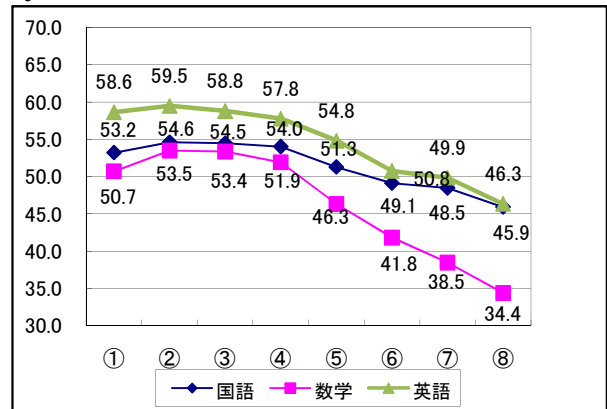
**Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

H20	H21	
6.9	6.9%	① 全く、またはほとんど見ない。
6.3	6.3%	② 30分より少ない。
10.0	10.9%	③ 30分～
24.7	24.6%	④ 1時間～
23.8	24.0%	⑤ 2時間～
15.0	15.0%	⑥ 3時間～
6.9	6.6%	⑦ 4時間～
5.4	5.2%	⑧ 5時間以上
1.0	0.5%	⑨ 記入ミス・無答



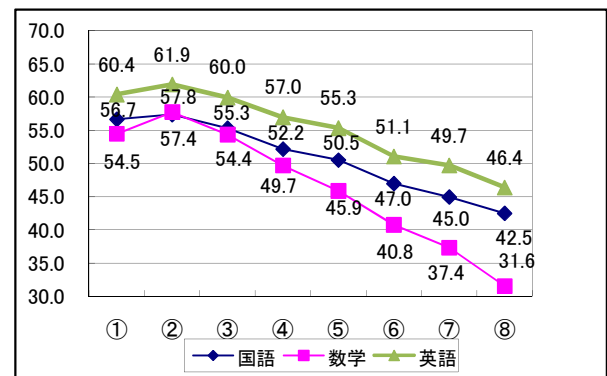
**Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

H20	H21	※H18は「ゲームをしますか」
41.5	38.1%	① 全く、またはほとんどしない。
12.6	12.4%	② 30分より少ない。
12.3	13.4%	③ 30分～
16.2	17.4%	④ 1時間～
8.9	10.2%	⑤ 2時間～
3.7	4.6%	⑥ 3時間～
1.5	1.5%	⑦ 4時間～
2.2	2.0%	⑧ 5時間以上
1.1	0.4%	⑨ 記入ミス・無答



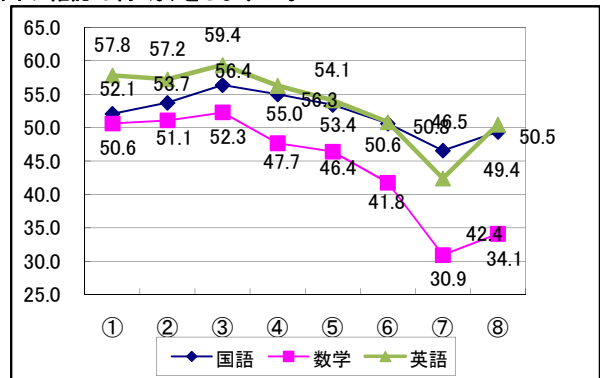
**Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

H20	H21	
14.1	14.9%	① 全く、またはほとんどしない。
21.3	23.4%	② 30分より少ない。
15.7	15.5%	③ 30分～
15.9	16.2%	④ 1時間～
11.5	11.2%	⑤ 2時間～
8.6	7.9%	⑥ 3時間～
4.3	3.8%	⑦ 4時間～
7.3	6.5%	⑧ 5時間以上
1.3	0.5%	⑨ 記入ミス・無答



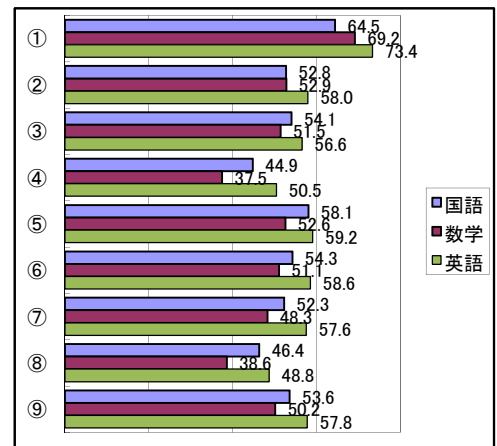
**Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

H20	H21	
55.9	<b>57.0%</b>	① 全く、またはほとんどしない。
18.5	<b>18.4%</b>	② 30分より少ない。
11.6	<b>11.3%</b>	③ 30分～
7.5	<b>7.7%</b>	④ 1時間～
2.8	<b>2.9%</b>	⑤ 2時間～
1.5	<b>1.3%</b>	⑥ 3時間～
0.5	<b>0.4%</b>	⑦ 4時間～
0.7	<b>0.7%</b>	⑧ 5時間以上
1.0	<b>0.3%</b>	⑨ 記入ミス・無答



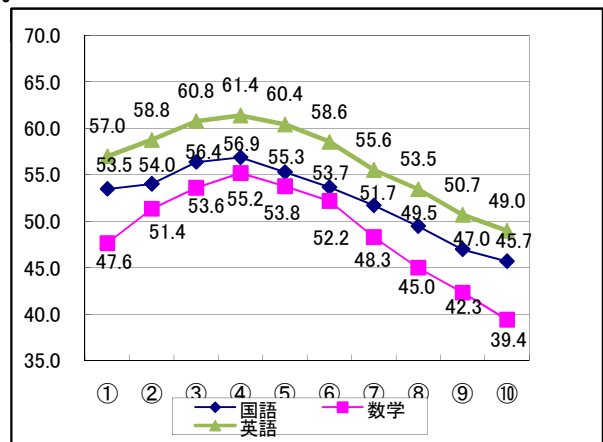
**Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

H20	H21	
4.5	<b>3.9%</b>	① 家庭学習
19.1	<b>19.7%</b>	② テレビやビデオ
15.3	<b>17.8%</b>	③ ゲームやパソコン ※ H18 ③ゲーム
12.0	<b>11.1%</b>	④ 電話やメール
2.6	<b>2.6%</b>	⑥ 読書
23.3	<b>23.1%</b>	⑤ 自分の趣味
2.6	<b>3.1%</b>	⑦ 家族との対話
1.9	<b>1.8%</b>	⑧ 手伝い
17.3	<b>16.4%</b>	⑨ その他
1.4	<b>0.5%</b>	⑩ 記入ミス・無答



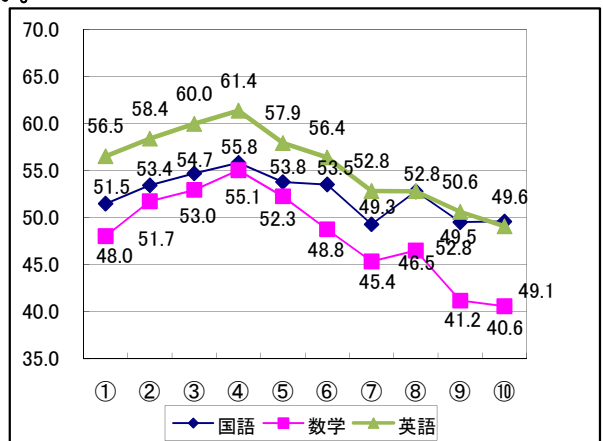
**Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオをみますか。**

H20	H21	
4.5	<b>4.9%</b>	① 全く、またはほとんど見ない。
3.0	<b>2.9%</b>	② 30分より少ない。
4.5	<b>4.6%</b>	③ 30分～
13.1	<b>13.9%</b>	④ 1時間～
20.3	<b>20.0%</b>	⑤ 2時間～
19.7	<b>19.7%</b>	⑥ 3時間～
12.5	<b>12.4%</b>	⑦ 4時間～
9.8	<b>9.7%</b>	⑧ 5時間～
4.4	<b>4.3%</b>	⑨ 6時間～
6.8	<b>6.9%</b>	⑩ 7時間以上
1.4	<b>0.7%</b>	⑪ 記入ミス・無答



**Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

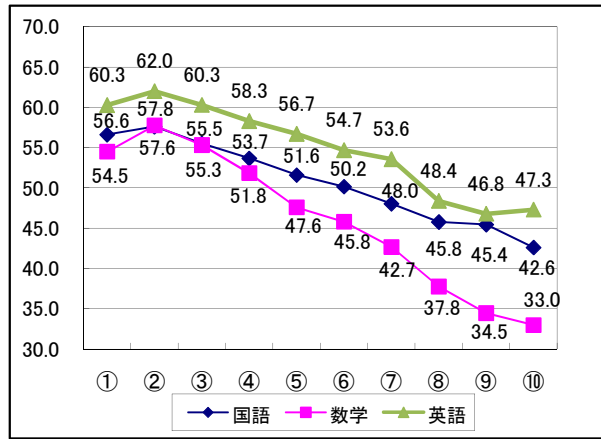
H20	H21	
33.3	<b>29.5%</b>	① 全く、またはほとんどしない。
9.9	<b>9.3%</b>	② 30分より少ない。
8.8	<b>9.5%</b>	③ 30分～
16.0	<b>16.7%</b>	④ 1時間～
13.0	<b>14.2%</b>	⑤ 2時間～
7.8	<b>9.3%</b>	⑥ 3時間～
3.3	<b>4.0%</b>	⑦ 4時間～
2.6	<b>2.7%</b>	⑧ 5時間～
1.2	<b>1.1%</b>	⑨ 6時間～
3.0	<b>3.0%</b>	⑩ 7時間以上
1.1	<b>0.6%</b>	⑪ 記入ミス・無答





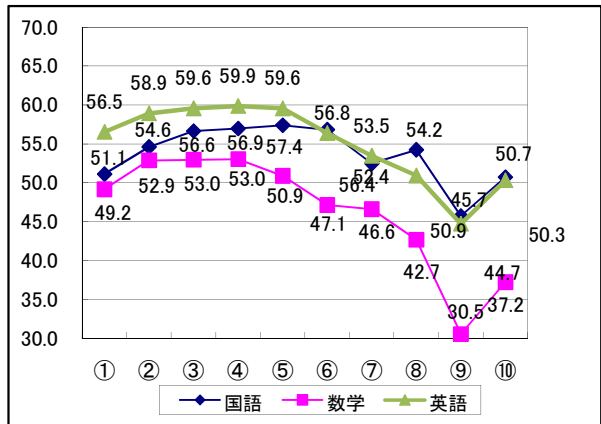
**Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

H20	H21	
12.9	<b>13.0%</b>	① 全く、またはほとんどしない。
17.4	<b>19.2%</b>	② 30分より少ない。
13.8	<b>13.8%</b>	③ 30分～
14.5	<b>15.7%</b>	④ 1時間～
12.0	<b>11.5%</b>	⑤ 2時間～
9.4	<b>8.7%</b>	⑥ 3時間～
5.4	<b>5.1%</b>	⑦ 4時間～
4.7	<b>4.4%</b>	⑧ 5時間～
2.2	<b>2.0%</b>	⑨ 6時間～
6.3	<b>6.0%</b>	⑩ 7時間以上
1.4	<b>0.5%</b>	⑪ 記入ミス・無答



**Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

H20	H21	
57.5	<b>58.3%</b>	① 全く、またはほとんどしない。
13.8	<b>13.5%</b>	② 30分より少ない。
9.7	<b>9.4%</b>	③ 30分～
9.0	<b>9.3%</b>	④ 1時間～
4.8	<b>4.7%</b>	⑤ 2時間～
2.2	<b>2.1%</b>	⑥ 3時間～
0.8	<b>0.9%</b>	⑦ 4時間～
0.7	<b>0.7%</b>	⑧ 5時間～
0.2	<b>0.3%</b>	⑨ 6時間～
0.5	<b>0.7%</b>	⑩ 7時間以上
0.8	<b>0.3%</b>	⑪ 記入ミス・無答



## 平成21年度 みやぎ学力状況調査 質問紙調査結果(2学年)

## Q1 高校卒業後、進みたいと考えている進路のうち、現在最も強く希望しているのは次のうちどれですか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
15.6	35.9	47.8	22.2	23.0	31.7	33.1	30.1	① 4年制国公立大学
16.6	23.0	19.0	10.7	11.2	16.5	11.2	17.8	② 4年制私立大学
2.9	2.0	2.9	4.6	3.6	3.2	3.6	3.0	③ 短期大学
15.5	15.4	12.3	18.1	18.8	15.7	15.8	14.9	④ 専修学校・各種学校
35.2	13.3	9.7	30.4	27.3	20.9	16.2	21.1	⑤ 民間就職
2.9	2.1	1.9	4.1	4.5	3.0	2.9	3.0	⑥ 公務員就職
0.2	0.2	0.1	0.2	0.5	0.2	0.3	0.2	⑦ 家業
7.9	6.8	5.0	8.4	9.5	7.2	13.9	6.7	⑧ 未定
3.1	1.0	1.2	1.3	1.4	1.4	2.0	1.5	⑨ その他
0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	1.0	1.7	⑩ 記入ミス・無答

- ・進学希望者(①～④)は67.1%で、1年次と比べ3.4ポイント増加。
  - ・4年制大学・短大への進学希望者(①～③)は51.4%で、1年次と比べ3.5ポイント増加。
  - ・就職希望者(⑤～⑦)は24.1%で、1年次と比べ4.7ポイント増加。
  - ・⑧の未定と⑨のその他を選択した者合わせて8.6%で、1年次と比べ7.3ポイント減少。
  - ・大学進学希望が就職希望に集中し、専修・各種学校への進学希望と未定が減少→卒業後の進路希望がより具体化。
- 進路指導、個人面談、キャリア教育等の充実による進路希望へのサポート、未定者へのアドバイスが行われた結果が未定者の減少につながっていると思われるが、継続した指導が必要と考えられる。

## Q2 自分の進路希望の達成について、どのように考えていますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
59.0	58.1	62.0	57.7	56.8	59.0	50.1	58.5	① 卒業までに絶対達成しようと思っている。
7.7	9.4	7.1	8.2	9.5	8.3	10.4	8.0	② 達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている。
19.4	19.7	18.7	21.5	19.0	19.6	21.6	18.3	③ 卒業までに達成できなければ他の進路に変えてもいいと思っている。
9.2	8.9	8.5	8.1	9.7	8.8	10.9	9.7	④ 何とかなるだろうと思っている。
4.6	3.6	3.7	4.4	4.8	4.1	5.6	3.7	⑤ あまり考えないようにしている。
0.1	0.3	0.1	0.0	0.3	0.2	1.4	1.8	⑥ 記入ミス・無答

- ・進路の達成に向けては、1年次よりも「卒業までに絶対達成しようと考えている者」が8.9ポイントも増加。
  - ・④⑤のような進路意識の希薄な層が3.6%減少して、進路に対しての強いこだわりが表れてきている。
- 今後は、進路に対する強い意志をもつ者がさらに増加するよう、進路指導の充実が求められる。

## Q3 普段どんな気持ちで勉強していますか。最も強く思っているものを選んでください。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
9.8	9.5	9.9	8.4	10.6	9.6	11.2	9.7	① 分からないことでも自分の力で答えを見つけられるようになりたい。
14.3	13.6	13.7	13.1	13.4	13.6	12.7	13.6	② 多くのことを知り社会に出て役立つ力を身につけたい。
13.4	16.1	18.8	15.8	14.9	16.3	11.5	16.1	③ 入学試験や就職試験に備えたい。
0.8	1.1	1.0	1.1	0.7	1.0	1.1	0.8	④ 親や先生にほめられたい。
32.3	33.9	34.0	34.3	31.8	33.5	33.1	31.7	⑤ 成績を上げたい。
3.1	1.9	2.3	2.1	2.4	2.3	2.9	2.2	⑥ 先生や家族に言われるから勉強している。
24.1	20.6	17.3	22.7	23.3	21.0	21.9	20.5	⑦ 特に考えていない。
2.0	3.0	2.7	2.3	2.4	2.6	3.5	2.6	⑧ その他
0.2	0.3	0.3	0.1	0.5	0.3	2.1	2.8	⑨ 記入ミス・無答

- ・1年次同様、⑤の成績向上を意識して勉強している者が33.5%と高い。
- ・①②の知的好奇心・探究心や社会で役立つことを意識している者が合わせて23.2%いる。
- ・③の進路を意識して勉強している層が4.8ポイント増加。
- ・⑥～⑧の学習に消極的な層は全体の約25.9%で、1年次よりは2.4ポイント減少している。

## Q4 学校の授業の内容がどの程度理解できますか。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
5.5	7.9	9.2	4.8	7.5	7.3	6.4	7.4	① ほとんどの授業がよく理解できる。
34.6	38.8	40.2	34.7	37.6	37.6	35.2	36.4	② 理解できる授業の方が多い。
46.5	39.6	38.1	45.0	41.2	41.4	43.5	41.1	③ 理解できる授業と理解できない授業が半分以上ある。
11.5	10.5	10.0	13.2	10.0	10.9	11.1	10.4	④ 理解できない授業の方が多い。
1.7	2.8	2.3	2.1	3.2	2.4	2.5	2.7	⑤ ほとんどの授業が理解できない。
0.3	0.5	0.3	0.2	0.5	0.4	1.3	2.0	⑥ 記入ミス・無答

- ・だいたい理解できると回答した者は①と②を合わせて44.9%で1年次と比べ3.3ポイント増加。昨年に比べ1.1ポイント増加。
  - ・あまり理解できないと回答した者は④と⑤を合わせて13.3%で1年次と比べ0.3ポイント減少。昨年に比べ0.2ポイント増加。
  - ・③の理解できる授業と理解できない授業が半々という層も減少しており、全体としては、授業がわかりやすいと感じている層が増えている。
- 学年進行に従って分かる授業に向けての各学校での工夫・改善が見て取れる結果であり、引き続き授業改善に向けての取組の

**Q5 授業で分からないことがあったら、どうすることが多いですか(該当するものをすべて選んでください)。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
51.4	58.4	74.2	54.2	54.1	<b>56.3</b>	55.0	55.2	① 自分で調べる。
36.8	34.7	45.3	38.3	38.4	<b>36.8</b>	34.7	37.7	② 学校の先生に質問する。
70.9	70.8	87.5	74.6	70.5	<b>71.4</b>	71.5	69.6	③ 友達に聞く。
13.0	12.6	15.5	12.1	10.6	<b>12.1</b>	18.8	12.4	④ 家族に聞く。
10.0	12.3	16.0	10.0	11.6	<b>11.6</b>	13.7	12.4	⑤ 塾・予備校や家庭教師の先生に質問する。
20.4	19.4	23.1	22.9	20.3	<b>20.2</b>	22.1	20.3	⑥ そのままにしておく。
2.8	3.0	2.9	4.4	3.6	<b>3.2</b>	4.6	4.1	⑦ その他

- ・①～③は主に学校内で解決を図るものであるが、そのうち最も多いのが「友達同士で解決する」場合である。
- ・3番目の「学校の先生に質問する」は1年次よりも2.1ポイント増加。
- ・④の「家族に聞く」は1年次より6.7ポイント減少。
- 「そのままにしておく」と回答した者は1.9ポイント減少しているが、全体の約2割を占めており、生徒の理解度を計画的にチェックする等の教員の工夫が必要である。

**Q6 次の教科のうち、最も得意だと感じる教科はどれですか。また、最も不得意だと感じる教科はどれですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	得意教科
22.1	17.0	20.4	19.5	19.3	<b>19.4</b>	20.5	20.2	① 国語
11.2	17.1	14.8	12.3	12.5	<b>14.0</b>	11.5	13.6	② 地理歴史
1.3	1.8	2.9	3.1	1.6	<b>2.3</b>	3.6	2.3	③ 公民
18.8	20.7	24.4	19.0	23.5	<b>21.6</b>	20.8	20.8	④ 数学
7.4	6.5	8.8	9.6	6.5	<b>7.9</b>	11.0	8.4	⑤ 理科
13.9	17.1	15.3	14.5	12.9	<b>14.9</b>	14.4	15.1	⑥ 英語
11.7	8.3	4.4	8.9	11.0	<b>8.2</b>	7.1	8.0	⑦ 専門教科
12.1	10.9	8.7	12.7	11.8	<b>11.0</b>	9.8	10.2	⑧ その他
1.5	0.6	0.3	0.4	0.9	<b>0.6</b>	1.3	1.4	⑨ 記入ミス・無答

- ・数学、国語、英語、地理歴史、理科の順番。
- ・1年次と比べると、得意教科の順番は同じであるが、理科を得意とする回答の割合が3.1ポイント減少している。

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	不得意教科
7.8	15.2	16.0	10.0	10.5	<b>12.7</b>	10.6	12.0	① 国語
12.4	8.8	8.7	11.4	11.4	<b>10.2</b>	10.8	10.8	② 地理歴史
1.7	1.3	2.2	1.8	1.5	<b>1.7</b>	2.8	2.0	③ 公民
30.5	30.8	32.0	32.9	28.5	<b>31.1</b>	29.6	30.6	④ 数学
12.2	12.4	10.3	8.4	11.0	<b>10.7</b>	11.2	10.0	⑤ 理科
24.2	25.9	26.2	26.2	28.2	<b>26.3</b>	28.2	27.4	⑥ 英語
5.3	2.2	1.9	5.4	4.4	<b>3.5</b>	3.1	3.4	⑦ 専門教科
2.3	2.4	1.8	2.5	2.4	<b>2.3</b>	2.0	2.0	⑧ その他
3.5	1.0	0.8	1.3	2.1	<b>1.5</b>	1.7	1.8	⑨ 記入ミス・無答

- ・数学、英語、国語、理科、地理歴史の順番で、1年次と比べ、理科、地理歴史の順位が入れ替わっている。
- ・英語を不得意とする回答が1年次より減少しており、学習方法が定着してきていることが窺える。
- ・数学、英語、理科は1年次同様不得意が得意を上回っている。
- 数学又は英語を不得意と感じている生徒が約6割にのぼることから、それらの生徒に対し、学習習慣確立に向けての支援をする等の工夫が必要である。

**Q7 学校からどのくらいの割合で宿題・課題が出されていますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
9.2	10.9	17.2	12.9	5.7	<b>11.9</b>	15.4	11.1	① ほとんど毎日出ている。
27.4	32.5	30.1	28.1	20.9	<b>28.3</b>	33.4	28.8	② 週に2～3回出ている。
42.1	35.6	41.3	35.7	42.1	<b>39.1</b>	36.7	40.1	③ 週に1回くらい出ている。
20.9	20.6	11.3	23.1	30.9	<b>20.4</b>	13.6	19.3	④ ほとんど出していない。
0.3	0.5	0.1	0.2	0.3	<b>0.3</b>	0.9	0.7	⑤ 記入ミス・無答

- ・①、②を合わせて、週あたり2回以上宿題・課題が出される割合が1年次と比べると8.6ポイント減少している。
- ・ほとんど宿題が出されない割合も1年次よりも6.8ポイント増加し、家庭学習が生徒の自主性に任せられる傾向。
- Q10の結果の1年次よりも家庭学習時間が減少していることから、2年次においても家庭学習習慣を確立していくための指導の工夫が必要であると思われる。

**Q8 学校からどのくらいの割合でテスト(小テストや確認テストを含む)がありますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
6.0	15.3	10.2	12.9	12.4	<b>11.9</b>	11.1	9.4	① ほとんど毎日ある。
22.6	26.0	44.4	29.5	25.2	<b>31.2</b>	31.1	35.2	② 週に2～3回ある。
48.4	27.5	33.3	25.0	31.1	<b>31.5</b>	32.6	28.1	③ 週に1回くらいある。
22.6	31.0	11.9	32.5	30.9	<b>25.1</b>	24.3	26.6	④ ほとんどない。
0.3	0.2	0.2	0.1	0.4	<b>0.2</b>	0.9	0.7	⑤ 記入ミス・無答

- ・①、②、③を合わせて、週1回以上テストが行われる割合は74.6%である。
- ・ほとんど実施しない割合は25.1%である。
- Q4の結果から、分かる授業に向けての各学校の工夫・改善が進んでいるものの、日常の授業における小テストの実施については工夫が必要であると思われる。

**Q9 あなたが受けた授業はどんな授業ですか。最も近いものを選んでください。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
29.9	31.3	30.1	34.3	29.8	<b>31.2</b>	35.1	30.0	① 基礎・基本からじっくり分かるまで教えてくれる授業
3.7	6.6	8.7	4.9	6.1	<b>6.4</b>	6.6	6.3	② 発展的な内容まで教えてくれる授業
41.4	42.0	41.3	39.0	38.7	<b>40.5</b>	39.0	42.3	③ 興味や関心もてるような授業
16.9	14.9	16.4	15.0	16.7	<b>15.9</b>	12.9	15.5	④ 進路希望達成につながる授業
7.6	5.0	3.5	6.9	8.3	<b>5.9</b>	5.3	5.1	⑤ 資格取得につながる授業
0.5	0.2	0.1	0.1	0.3	<b>0.2</b>	1.1	0.8	⑥ 記入ミス・無答

・③の興味・関心もてる授業を期待する声が1年次より1.5ポイント増加。  
 ・④の進路希望達成につながる授業を期待する声は1年次より3.0ポイント増加。  
 ・逆に基礎・基本からじっくりわかるまで教えてくれる体制を望む声は3.9ポイント減少。  
**○生徒の発達段階・学習進度や学習内容の深まりに合わせ、生徒の探究心を向上させるための授業改善や体制づくり等、各校の取組が望まれる。**

**Q10 平日(テスト期間や長期休業中などを除く通常の月曜日から金曜日)に、学校の授業時間以外にどのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
42.2	36.0	29.2	44.1	44.2	<b>37.6</b>	32.4	37.8	① 全く、またはほとんどしない。
13.4	13.0	12.0	12.7	10.9	<b>12.3</b>	11.9	12.3	② 30分より少ない。
12.0	14.7	18.5	14.8	12.3	<b>15.0</b>	17.2	14.3	③ 30分～
20.6	21.4	23.8	20.3	20.0	<b>21.5</b>	24.2	21.5	④ 1時間～
9.0	10.6	12.7	8.1	9.7	<b>10.3</b>	10.5	10.3	⑤ 2時間～
1.9	3.3	2.8	1.4	2.1	<b>2.4</b>	2.3	2.3	⑥ 3時間～
0.5	0.5	0.6	0.3	0.5	<b>0.5</b>	0.5	0.4	⑦ 4時間～
0.3	0.4	0.3	0.3	0.1	<b>0.3</b>	0.3	0.4	⑧ 5時間以上
0.1	0.2	0.1	0.0	0.2	<b>0.1</b>	0.7	0.7	⑨ 記入ミス・無答

・平日に家庭学習しない者は37.6%にのぼり、昨年より0.2ポイント減少しているものの、1年次よりも5.2ポイント増加し全体の回答の第1位を占めている。  
 ・⑤～⑧の家庭学習にしっかり取り組んでいる層は13.5%で、1年次とほぼ同程度。30分～1時間前後に回答が集まる傾向。  
 ・①～④の合計は1年次より0.7ポイント、昨年度より0.5ポイント微増。全体の86.4%が2時間未満の家庭学習時間となっている。  
**○2年次においても継続的に家庭学習定着のための意識付け及び学習時間増加へのさらなる取組が望まれる。**

**Q11 休日に、どのくらい勉強していますか。(塾・予備校で勉強したり、家庭教師の先生に教わったりしている時間も含む。)**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
41.6	34.0	23.9	43.5	44.7	<b>36.0</b>	30.2	36.1	① 全く、またはほとんどしない。
10.8	9.0	7.4	10.4	8.6	<b>9.0</b>	9.3	9.4	② 30分より少ない。
9.9	10.9	11.2	11.3	9.1	<b>10.6</b>	11.4	10.0	③ 30分～
16.3	17.0	21.7	14.9	14.6	<b>17.4</b>	19.2	17.2	④ 1時間～
11.9	14.3	18.4	11.9	12.6	<b>14.4</b>	15.3	13.8	⑤ 2時間～
6.5	8.0	9.0	5.2	6.1	<b>7.2</b>	8.0	7.5	⑥ 3時間～
1.3	4.1	4.6	1.7	2.5	<b>3.1</b>	3.1	2.9	⑦ 4時間～
0.7	1.3	2.1	0.3	0.8	<b>1.2</b>	1.4	1.2	⑧ 5時間～
0.3	0.8	0.9	0.1	0.4	<b>0.6</b>	0.6	0.5	⑨ 6時間～
0.3	0.5	0.7	0.4	0.1	<b>0.5</b>	0.4	0.4	⑩ 7時間以上
0.3	0.3	0.1	0.1	0.4	<b>0.2</b>	1.1	1.0	⑪ 記入ミス・無答

・休日に家庭学習をしない者が1年次より5.8ポイント増加し、平日より1.6ポイント低くなっている。  
 ・⑤～⑩の回答から、休日に2時間以上の家庭学習をしている者の割合は1年次よりも1.8ポイント減少。  
**○Q10とあわせて、2年次の家庭学習への取組が今後の大きな課題であり、各校での取組の改善が望まれる。**

**Q12 家庭学習の仕方に、最も近いものはどれですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
11.2	16.4	19.6	11.3	12.8	<b>15.0</b>	15.8	15.2	① ほぼ毎日している。
4.2	4.7	4.7	3.9	4.1	<b>4.4</b>	4.4	4.5	② 主に平日にしている。
5.4	5.0	6.9	4.6	5.6	<b>5.6</b>	6.6	5.4	③ 主に休日にしている。
19.2	19.2	15.8	21.5	21.7	<b>19.2</b>	15.3	19.9	④ 主に定期考査前にしている。
5.1	4.7	5.4	5.4	3.4	<b>4.8</b>	5.5	4.3	⑤ 主に宿題・課題のあるときにしている。
25.5	25.9	25.9	26.0	20.3	<b>24.9</b>	24.8	23.9	⑥ 主に宿題・課題があるときと定期考査前にしている。
1.1	1.3	1.0	1.4	1.7	<b>1.3</b>	1.5	1.6	⑦ 主に塾・予備校のあるときや家庭教師の先生がくるときにしている。
12.4	10.3	11.0	11.3	12.6	<b>11.4</b>	13.7	11.4	⑧ 気が向いたときにしている。
14.3	11.1	8.7	13.3	15.5	<b>12.1</b>	10.4	11.8	⑨ 家庭学習はほとんどしない。
1.2	1.2	1.0	1.1	1.8	<b>1.2</b>	1.2	1.2	⑩ その他
0.5	0.0	0.1	0.2	0.4	<b>0.2</b>	0.8	0.8	⑪ 記入ミス・無答

・①の毎日学習する層が1年次に比べ0.8ポイント、昨年に比べ0.2ポイント減少。  
 ・⑨の家庭学習をほとんどしない割合も1年次に比べ1.7ポイント増加、④⑥の定期考査前、宿題・課題のあるときにしている者は44.1%で、1年次より4.0ポイントの増加。  
**○2年次において学習意欲が低下し、その場しのぎの学習しかしない者が1年次よりも増えているものと思われる。**  
 ・家庭学習の習慣が身に付いていると考えられる①②の合計は19.4%で1年次よりも0.8ポイント減少しており、依然約8割の生徒は家庭学習の習慣を身に付けていない。  
**○学校と家庭の連携、授業を中心とした学校の体制づくりを通した、家庭学習の推進が望まれる。**

**Q13 次の教科のうち、家庭学習で最も力を入れて取り組んでいる教科はどれですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
6.4	3.3	4.2	5.7	4.8	<b>4.7</b>	5.6	4.8	① 国語
4.8	5.5	5.7	7.5	7.0	<b>6.2</b>	5.1	6.1	② 地理歴史
1.2	0.4	1.1	1.2	0.8	<b>0.9</b>	1.7	0.9	③ 公民
27.0	43.3	46.3	32.5	31.4	<b>37.9</b>	39.2	36.9	④ 数学
4.8	3.1	4.3	3.8	5.0	<b>4.1</b>	5.1	4.2	⑤ 理科
20.9	27.2	28.9	21.6	23.0	<b>25.0</b>	24.5	25.8	⑥ 英語
22.1	8.1	2.3	13.3	13.7	<b>10.2</b>	8.1	10.1	⑦ 専門教科
12.5	8.8	6.9	14.2	13.8	<b>10.7</b>	9.4	10.2	⑧ その他
0.3	0.2	0.3	0.1	0.7	<b>0.3</b>	1.3	1.0	⑨ 記入ミス・無答

- ・1年次同様、数学、英語に力を入れて取り組んでいる割合が高い。
- ・Q6の不得意教科は、数学、英語という回答が多い。

**Q14 家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
14.3	12.4	12.0	15.0	14.3	<b>13.4</b>	14.4	12.7	① 家庭学習の方法が分からない。
25.7	30.3	32.7	27.5	28.1	<b>29.5</b>	26.4	28.6	② 家庭学習に集中できない。
17.4	15.8	15.5	15.5	14.9	<b>15.7</b>	14.5	15.5	③ 学習の計画を立てても長続きしない。
14.8	15.7	16.0	13.9	13.0	<b>14.8</b>	18.6	16.1	④ 家庭学習と部活動の両立が難しい。
6.5	7.1	5.9	7.9	7.0	<b>6.9</b>	6.6	6.3	⑤ 家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない。
2.9	3.9	4.4	3.6	3.1	<b>3.7</b>	3.7	4.5	⑥ その他
18.2	14.8	13.2	16.6	19.4	<b>15.9</b>	14.8	15.5	⑦ 特に悩みはない。
0.3	0.0	0.2	0.0	0.3	<b>0.1</b>	1.0	0.8	⑧ 記入ミス・無答

- ・8割以上の者が何らかの悩みを抱えていることがわかる。
- ・「家庭学習と部活動の両立が難しい」とする者が1年次よりも減少。「家庭学習に集中できない」とする者が3.1ポイント増加。
- 集中を阻害する要因を探りながら家庭学習に集中できる環境づくりを保護者に考えてもらうよう、家庭との連携を進めていく必要がある。また、「家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない」とするものが増加傾向にあり、学習意欲がわかないことにも大きく関わるものと考えられる。授業や学習カウンセリング等を通して、具体的な学習方法について指導する必要がある。

**Q15 学校に行く前に朝食をとりますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
70.7	76.3	76.1	71.9	69.7	<b>73.5</b>	74.0	71.9	① 必ずとる。
15.0	13.3	13.2	15.8	14.9	<b>14.3</b>	14.5	14.3	② たいていとる。
7.4	4.7	5.3	6.9	7.5	<b>6.1</b>	5.9	6.8	③ とらないことが多い。
6.8	5.5	5.3	5.3	7.7	<b>5.9</b>	4.9	6.1	④ 全く、または、ほとんどとらない。
0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	<b>0.1</b>	0.7	0.9	⑤ 記入ミス・無答

- ・朝食を必ずとる生徒は昨年より増加しているが、学年進行とともに朝食をとらないことが習慣化する生徒が増加している傾向が見られる。
- ・数学・国語においても、朝食の習慣化と基礎学力定着度との相関関係が明確。
- 朝食をとらない習慣が学校生活に及ぼす影響を、生徒だけでなく家庭にも周知していく必要がある。

**Q16 平日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
3.7	7.1	8.8	3.9	4.5	<b>6.1</b>	6.3	5.7	① 家庭学習
26.8	26.3	24.7	28.4	26.2	<b>26.3</b>	24.3	25.3	② テレビやビデオ
15.1	15.7	15.4	14.3	14.2	<b>15.0</b>	12.1	12.2	③ ゲームやパソコン
17.5	13.7	12.7	19.4	18.8	<b>16.0</b>	19.7	18.1	④ 電話やメール
2.9	3.2	3.5	3.0	3.3	<b>3.2</b>	3.5	3.8	⑤ 読書
18.7	15.7	16.4	16.1	17.5	<b>16.6</b>	16.4	16.7	⑥ 自分の趣味
3.9	4.4	4.0	3.6	3.5	<b>3.9</b>	3.9	3.7	⑦ 家族との会話
1.8	1.0	1.7	1.6	1.7	<b>1.5</b>	1.4	1.3	⑧ 手伝い
9.0	12.7	12.7	9.5	9.7	<b>11.1</b>	11.1	12.1	⑨ その他
0.6	0.3	0.2	0.3	0.6	<b>0.4</b>	1.3	1.1	⑩ 記入ミス・無答

- ・「テレビやビデオ」、「自分の趣味」、「電話やメール」の時間が多く、Q14の「家庭学習に集中できない」理由の一端を窺うことができる。この3項目を合わせると58.9%で1年次より1.5ポイント減少。
- ・「電話やメール」は1年次より3.7ポイント減少しているものの、依然として高い割合である。
- これらのことが家庭学習の時間を阻害している原因となっている。今後は一日の学習を計画的に行う習慣の育成が必

**Q17 平日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
6.0	8.5	8.9	6.3	7.6	<b>7.7</b>	6.9	7.5	① 全く、またはほとんど見ない。
5.8	7.9	8.8	5.7	5.4	<b>7.0</b>	6.3	6.4	② 30分より少ない。
10.6	11.2	12.9	8.5	8.3	<b>10.5</b>	10.0	10.6	③ 30分～
23.6	26.2	27.5	21.5	21.5	<b>24.4</b>	24.7	25.8	④ 1時間～
24.9	22.6	22.6	24.4	23.6	<b>23.4</b>	23.8	22.9	⑤ 2時間～
15.2	13.9	10.9	18.7	16.9	<b>14.8</b>	15.0	14.6	⑥ 3時間～
7.6	5.3	4.8	8.2	9.0	<b>6.7</b>	6.9	6.3	⑦ 4時間～
6.0	4.2	3.4	6.5	7.0	<b>5.2</b>	5.4	5.0	⑧ 5時間以上
0.3	0.2	0.2	0.2	0.7	<b>0.3</b>	1.0	0.9	⑨ 記入ミス・無答

- ・3時間以上見ている者は26.7%であり、1年次よりも0.6ポイント減少。

**Q18 平日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
38.3	37.0	36.9	40.5	38.8	<b>38.2</b>	41.5	43.6	① 全く、またはほとんどしない。
11.6	12.3	13.7	12.3	11.0	<b>12.3</b>	12.6	12.1	② 30分より少ない。
10.8	12.9	13.2	10.9	10.8	<b>11.9</b>	12.3	11.6	③ 30分～
18.8	17.7	19.1	16.8	17.4	<b>18.0</b>	16.2	15.5	④ 1時間～
10.4	10.5	10.0	10.2	10.7	<b>10.3</b>	8.9	8.9	⑤ 2時間～
4.7	5.6	4.0	4.9	5.3	<b>4.8</b>	3.7	4.1	⑥ 3時間～
2.2	1.7	1.2	1.9	1.8	<b>1.7</b>	1.5	1.6	⑦ 4時間～
2.7	2.1	1.8	2.3	3.5	<b>2.4</b>	2.2	1.8	⑧ 5時間以上
0.5	0.2	0.1	0.2	0.6	<b>0.3</b>	1.1	0.8	⑨ 記入ミス・無答

・1年次には「テレビやビデオ」に比べて、平日にゲームを行っている者は少なかったが、1時間以上ゲームやパソコンを行っている者が、1年次よりも4.7ポイント増加している。

**Q19 平日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
19.6	19.6	21.0	19.1	17.1	<b>19.4</b>	14.1	18.6	① 全く、またはほとんどしない。
22.9	25.8	28.0	21.8	21.0	<b>24.4</b>	21.3	22.7	② 30分より少ない。
11.8	14.9	16.1	12.0	12.9	<b>13.9</b>	15.7	13.3	③ 30分～
13.4	14.9	13.8	14.7	15.1	<b>14.4</b>	15.9	14.3	④ 1時間～
12.3	10.2	8.8	11.0	11.4	<b>10.4</b>	11.5	10.7	⑤ 2時間～
8.2	6.2	5.5	7.8	8.0	<b>6.9</b>	8.6	8.1	⑥ 3時間～
4.4	2.6	2.0	3.9	4.7	<b>3.3</b>	4.3	3.6	⑦ 4時間～
7.2	5.6	4.5	9.5	9.0	<b>6.9</b>	7.3	7.8	⑧ 5時間以上
0.1	0.2	0.2	0.3	0.8	<b>0.3</b>	1.3	0.9	⑨ 記入ミス・無答

・1時間以上電話やメールを行っている者は、1年次よりも5.7ポイント減少はしているが、41.9%を占めている。

○「家庭学習に集中できない」大きな要因になっていると思われる。また、Q10での家庭学習を「全く、またはほとんどしない」37.6%の生徒の生活状況が推測できる。

**Q20 平日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
56.6	62.3	58.7	58.2	57.0	<b>58.8</b>	55.9	58.1	① 全く、またはほとんどしない。
20.2	15.1	19.3	20.5	16.7	<b>18.3</b>	18.5	17.4	② 30分より少ない。
10.3	11.0	10.9	9.5	11.1	<b>10.6</b>	11.6	11.0	③ 30分～
7.9	7.2	7.0	7.0	8.4	<b>7.4</b>	7.5	7.6	④ 1時間～
3.0	2.6	2.1	1.8	3.2	<b>2.4</b>	2.8	2.9	⑤ 2時間～
0.6	1.0	1.0	1.7	1.5	<b>1.2</b>	1.5	1.1	⑥ 3時間～
0.5	0.1	0.3	0.3	0.7	<b>0.4</b>	0.5	0.4	⑦ 4時間～
0.7	0.5	0.5	0.6	0.8	<b>0.6</b>	0.7	0.4	⑧ 5時間以上
0.2	0.2	0.3	0.3	0.6	<b>0.3</b>	1.0	1.1	⑨ 記入ミス・無答

・6割近くの者が「全く、またはほとんどしない」状況であり、1年次よりも2.9ポイント増加。

○平日の読書はなお習慣化されていない状況である。朝読書や小論文指導で読書の時間を取り入れていいる学校が増加しているものの、読書の楽しさ等を伝える努力とともに、家庭や学校において習慣化を図る工夫が望まれる。

**Q21 休日に、家の中で最も時間をかけて行っていることは何ですか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
2.4	4.4	6.7	2.2	3.3	<b>4.1</b>	4.5	3.9	① 家庭学習
20.2	20.3	20.7	22.2	20.6	<b>20.8</b>	19.1	20.1	② テレビやビデオ
19.0	19.6	18.0	16.4	17.4	<b>18.0</b>	15.3	14.5	③ ゲームやパソコン
10.7	8.1	6.9	12.9	11.4	<b>9.7</b>	12.0	11.1	④ 電話やメール
2.1	2.3	2.7	2.1	2.8	<b>2.4</b>	2.6	2.9	⑤ 読書
23.8	21.9	22.8	22.5	22.4	<b>22.6</b>	23.3	23.1	⑥ 自分の趣味
2.3	3.1	3.1	2.4	2.5	<b>2.8</b>	2.6	2.8	⑦ 家族との対話
2.7	1.5	1.3	2.5	2.3	<b>2.0</b>	1.9	1.7	⑧ 手伝い
16.4	18.3	17.7	16.4	16.7	<b>17.2</b>	17.3	18.6	⑨ その他
0.5	0.3	0.2	0.4	0.6	<b>0.4</b>	1.4	1.3	⑩ 記入ミス・無答

・「電話やメール」の割合は2.3ポイント減少しているが、「テレビやビデオ」、「ゲームやパソコン」は増加している。本来平日よりも多い割合になって欲しい「家庭学習」については、平日と比べると2.0ポイント低くなっている。

**Q22 休日に、だいたいどのくらいテレビやビデオを見ますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
4.6	6.6	6.0	4.5	6.0	<b>5.7</b>	4.5	5.5	① 全く、またはほとんど見ない。
4.0	3.3	4.2	3.0	3.8	<b>3.7</b>	3.0	3.4	② 30分より少ない。
4.5	4.7	6.7	4.3	4.5	<b>5.1</b>	4.5	5.2	③ 30分～
12.6	15.2	17.4	12.0	11.9	<b>14.2</b>	13.1	13.8	④ 1時間～
20.1	22.0	23.3	18.6	17.4	<b>20.6</b>	20.3	20.6	⑤ 2時間～
19.8	19.9	18.3	19.6	19.6	<b>19.3</b>	19.7	18.8	⑥ 3時間～
12.7	11.2	10.9	13.8	13.0	<b>12.2</b>	12.5	12.1	⑦ 4時間～
10.3	9.3	6.0	10.9	10.0	<b>9.0</b>	9.8	9.4	⑧ 5時間～
3.9	2.8	2.8	5.0	4.6	<b>3.7</b>	4.4	4.2	⑨ 6時間～
7.1	4.7	4.1	8.0	8.2	<b>6.1</b>	6.8	5.8	⑩ 7時間以上
0.4	0.2	0.3	0.3	1.0	<b>0.4</b>	1.4	1.2	⑪ 記入ミス・無答

・3時間以上見ている者は1年次よりも2.9ポイント減少し、50.3%である。

・約10人に1人は6時間以上もテレビやビデオを見ており、「家庭学習に集中できない」大きな理由となっていると考えられる。

**Q23 休日に、だいたいどのくらいゲームやパソコンをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
30.8	30.2	29.0	34.4	32.7	<b>31.3</b>	33.3	36.2	① 全く、またはほとんどしない。
9.5	9.0	9.7	9.3	9.1	<b>9.3</b>	9.9	9.1	② 30分より少ない。
8.6	8.8	10.2	6.8	7.8	<b>8.5</b>	8.8	8.2	③ 30分～
14.4	15.9	18.7	15.7	15.1	<b>16.3</b>	16.0	15.4	④ 1時間～
14.3	14.3	14.0	13.8	13.0	<b>13.9</b>	13.0	12.7	⑤ 2時間～
8.4	10.4	8.1	9.0	8.6	<b>8.9</b>	7.8	7.9	⑥ 3時間～
5.1	4.3	4.0	4.0	4.1	<b>4.2</b>	3.3	3.3	⑦ 4時間～
3.4	2.7	2.6	2.3	3.7	<b>2.8</b>	2.6	2.4	⑧ 5時間～
1.4	1.2	0.9	1.1	1.0	<b>1.1</b>	1.2	1.2	⑨ 6時間～
3.8	3.0	2.6	3.3	4.1	<b>3.2</b>	3.0	2.6	⑩ 7時間以上
0.5	0.2	0.2	0.2	0.9	<b>0.4</b>	1.1	1.0	⑪ 記入ミス・無答

- ・平日と比較してゲームやパソコンを行う時間が長くなっている。
- ・1時間以上行っている者は平日より13.2ポイント多い状況である。

**Q24 休日に、だいたいどのくらい電話やメールをしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
16.9	19.1	18.7	16.6	15.9	<b>17.7</b>	12.9	16.6	① 全く、またはほとんどしない。
18.7	21.3	23.6	18.8	18.0	<b>20.5</b>	17.4	19.1	② 30分より少ない。
11.8	13.5	14.9	10.3	11.1	<b>12.6</b>	13.8	11.8	③ 30分～
13.2	14.1	15.3	14.1	14.5	<b>14.4</b>	14.5	13.9	④ 1時間～
11.2	11.0	9.7	11.4	11.0	<b>10.7</b>	12.0	10.9	⑤ 2時間～
9.4	7.6	6.2	8.0	8.4	<b>7.7</b>	9.4	8.4	⑥ 3時間～
5.5	4.3	3.6	5.8	6.0	<b>4.9</b>	5.4	5.0	⑦ 4時間～
5.1	2.9	2.9	4.7	4.6	<b>3.8</b>	4.7	4.6	⑧ 5時間～
2.1	1.6	1.3	2.1	2.1	<b>1.8</b>	2.2	2.1	⑨ 6時間～
5.9	4.3	3.6	8.1	7.9	<b>5.7</b>	6.3	6.2	⑩ 7時間以上
0.2	0.3	0.2	0.2	0.6	<b>0.3</b>	1.4	1.4	⑪ 記入ミス・無答

- ・1年次よりも「全く、またはほとんどしない」「30分より少ない」が合わせて7.9ポイント増加。
- ・30分以上の者は6.7ポイント減少しており、学年進行とともに電話やメールの使い方が改善。
- 7.5%が6時間以上も電話やメールに時間を割いており、家庭学習時間の確保に向けた改善にはつながっていない。

**Q25 休日に、だいたいどのくらい読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)をしますか。**

南部	中部南	中部北	北部	東部	全体	1年次	H20	
61.1	61.2	59.9	63.3	58.1	<b>60.7</b>	57.5	60.1	① 全く、またはほとんどしない。
12.7	13.0	13.8	12.5	11.7	<b>12.8</b>	13.8	12.1	② 30分より少ない。
9.8	9.3	10.0	8.3	9.0	<b>9.3</b>	9.7	8.9	③ 30分～
8.1	8.4	8.6	8.2	10.8	<b>8.8</b>	9.0	9.3	④ 1時間～
4.3	4.2	4.6	3.7	5.3	<b>4.4</b>	4.8	4.5	⑤ 2時間～
1.6	2.1	1.8	1.8	1.9	<b>1.9</b>	2.2	2.1	⑥ 3時間～
0.6	0.6	0.5	1.0	1.0	<b>0.7</b>	0.8	0.8	⑦ 4時間～
0.6	0.5	0.5	0.3	0.6	<b>0.5</b>	0.7	0.5	⑧ 5時間～
0.4	0.2	0.2	0.3	0.3	<b>0.2</b>	0.2	0.2	⑨ 6時間～
0.5	0.5	0.2	0.4	0.7	<b>0.4</b>	0.5	0.4	⑩ 7時間以上
0.4	0.1	0.1	0.1	0.5	<b>0.2</b>	0.8	1.1	⑪ 記入ミス・無答

- ・30分以内の者が7割を超え1年次よりもさらに読書時間が短くなっており、読書の習慣が身に付いているとは言えない。
- 平日の読書時間が確保できない分、休日を利用して読書をする習慣付けなど、各校の指導の工夫が必要である。

## まとめ

- 2年生の特徴として、
- ・1年次よりも進路希望未定者が6.7ポイント減少し進路希望が具体化してきており、その達成についての考えも、「達成するまで、卒業後1、2年かかってもかまわないと思っている」が2.1ポイント減少し、卒業までには実現したいと考えている層が8.9ポイント増えている。
  - ・授業についても、授業が理解できると回答した生徒が3.3ポイント増加してきているが、学習時間の増加にはつなげない。
  - ・週あたり2回以上宿題・課題が出される割合が1年次と比べると8.6ポイント減少しており、学校から出される宿題が1年次よりも減少している。
- 2学年においても家庭学習に取り組ませる方策を各教科で検討することが必要であり、また、1年次から少しずつ自分で課題を見つけ学習する姿勢を身に付けさせることも必要と思われる。
- ・「全く学習しない」者が、1年次より平日は5.2ポイント、休日は5.8ポイントも増加しており、家庭学習時間が平日、休日ともに減少してきている。
  - ・どのようなときに学習するかについても「定期考査前」の者が19.2%に増えるなど、学習がその場しのぎの対応になっている。その反面進路希望は具体化してきており、希望と学習に取り組む姿勢にギャップが見られる。
- 進路希望を実現するために、日頃のように学習に取り組むかななどを適宜アドバイスし、明確な目標を定めさせ積極的に取り組ませるための指導の工夫が必要である。また、教科に対する興味・関心をもち、探究心が育まれるような授業改善を行い、普段の授業等を通して「学ぶ喜び」をいかに与えていくか検討が必要である。今後は、読書時間を含めた家庭学習時間を計画的に確保し、平日だけでなく休日を効果的に活用する姿勢の育成が必要である。そのためには、課題や小テストの実施等についての工夫が求められる。
- また、学校に行く前に毎日朝食をとることなど、家庭の協力も得ながら、基本的な生活習慣を見直す機会を設け、繰り返し継続的に指導していくような踏み込んだ指導がなお一層求められる。